

The Bulletin of the Faculty of Global Communications

Cosmos



同志社大学グローバル・コミュニケーション学部機関誌

No.7

2018年3月

cosmos ['kɒzmos]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

流 希望 海 個 自 会

忙

界

道 進

動 漢

未

樂 波

交

輝 友 事 業

笑 努 空

Cosmos

No.7



— これらの漢字は、GCの学生たちが、
グローバル・コミュニケーションを
漢字一文字で表したものです。—

はじめに

この度はグローバル・コミュニケーション学部発行の学部機関紙 *Cosmos* 第7号を手にとっていただきまして、誠にありがとうございます。*Cosmos* は、多くの方々にこの学部を知っていただくため、また、学部内の学生への情報発信を目的として、学部開設以来、毎年発行しています。

今回、私たち編集部は「GCのその先へ」というテーマの下、*Cosmos* 第7号の完成を目指しました。2011年にグローバル・コミュニケーション学部が誕生して以来、ようやくと言っていいのでしょうか、第1、2、3期生と社会に羽ばたいていられました。先輩方が残してくださった、素晴らしい実績や可能性を受け継いでいくためにも、長い人生の中で、本学部の学生としてどうありたいか、何を習得したいかをここで今一度考えていただくきっかけになればと思います。

さて、みなさまはグローバル・コミュニケーション学部にどのような印象をお持ちでしょうか？既にご存知の方が多いと思いますが、やはり「留学」という一大イベントが本学部のアイデンティティーの一部でありながら、それがまた、他にもある様々な特徴や良さを隠してしまっている現状もあります。本誌では、留学特集はもちろんのこと、他項目にもまだまだ知られていない魅力が詰まっています。本学部生たちの生の声をぜひ読んでいただき、彼らの「将来への布石」を辿ってみてください。

最後に、私自身が本学部に入學して以来、常に心に留めていると同時に目標としている 5 C's の教育理念があります。具体的には、1. Communication (対話力) 2. Cultures (異文化教養) 3. Connections (既存知識と外国語を通して得た知見の統合) 4. Comparisons (言語や文化の違いの理解、尊重) 5. Communities (他言語、文化コミュニティへの積極的参加) です。本誌を手にとっていただいたみなさまには、この5 C's がどのように学生たちの生活に反映されているのかにも着目しながら、ご一読いただければと思います。

本誌の編集過程では、在学生、卒業生、先生方、学部事務室の職員の方々や長元遥香様にご協力いただきました。特に、編集委員の先生方には的確な指示と助言をいただきました。ここに感謝申し上げます。

それでは、最後までお楽しみください。

編集委員長 山本 舞美

表紙デザイン 後藤 友莉
内表紙デザイン 谷口 綾

Cosmos 第7号

目次

GC の各コースを大調査！	4
OB・OG 休学した先輩に聞いてみた！	14
GC 学部 セミプロ特集！	21
課外活動 発祥サークル紹介	29
GC 英語コース “教職課程” のお悩み解決！	33
GC の醍醐味 Study Abroad 大特集	35
2017年度卒業研究テーマ	70

GCの各コースを大調査!

このコーナーでは、英語コース (GCE)・中国語コース (GCC)・日本語コース (GCJ) の学生から生の声を聞くことで、それぞれの魅力に迫ります。「グローバル・コミュニケーション学部はいったいどんな学部なのだろう」と感じる皆様にお届けします。加えて、GC 学部生の日常生活についてのアンケートを通して、私たちの学部の様子を具体的にお伝えしたいと思います。

山本 舞美

GCE を調査!

GCE 駒場 由行

1. GCE の雰囲気・魅力

学生数が、各学年約80名という規模の小ささに大きな魅力があります。人数が多ければ多いほどたくさんの友人ができるのではないかと普通は考えるかもしれませんが、多すぎるとかえって難しいです。それに対し GCE には10人以下の科目から、学年全員 (およそ150名) が履修する必修科目まで様々なクラスがあるため、いろいろな人と深く関わることができます。大変な授業も多いですが、毎日明るい雰囲気に包まれながら楽しく過ごしています!

2. お気に入りの授業は何ですか

第二外国語の必修科目として受講していたドイツ語の授業が私は好きでした。ドイツ語が得意だったからではなく (むしろとても苦手でした (笑))、少人数授業だった点が大きな理由です。一人ひとりが発言する回数が多く、先生の雰囲気も明るく接しやすかったため、毎日授業に行くのが楽しみでした。クラスメートは皆私より優秀で、いつも私は頼ってばかりでしたが、皆優しく丁寧に教えてくれました。今でもあの授業は良い思い出です!

3. GCE を目指す後輩へ一言!

やる時はやり、遊ぶ時は遊ぶ。そういったメリハリのある生活を日々送れると思います。大変なことだとは十分承知していますが、皆さん受験勉強頑張ってください!

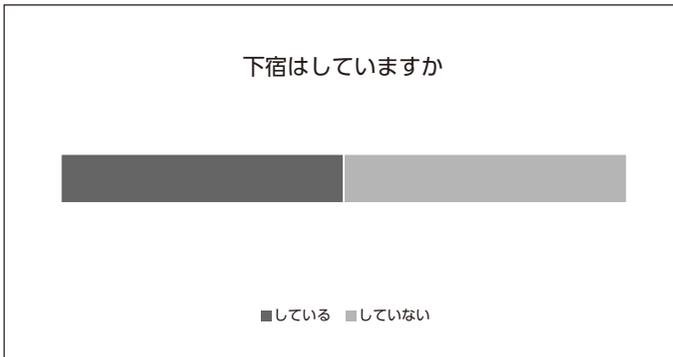


アンケート結果

調査対象者：GCE1回生～4回生

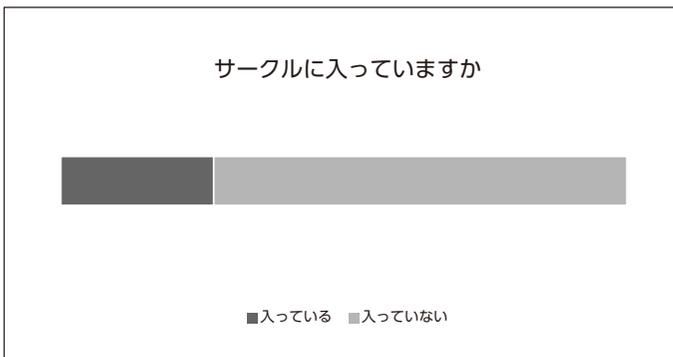
回答数：98人

Q1. 下宿はしていますか。



している 50%
していない 50%

Q2. サークルに入っていますか。

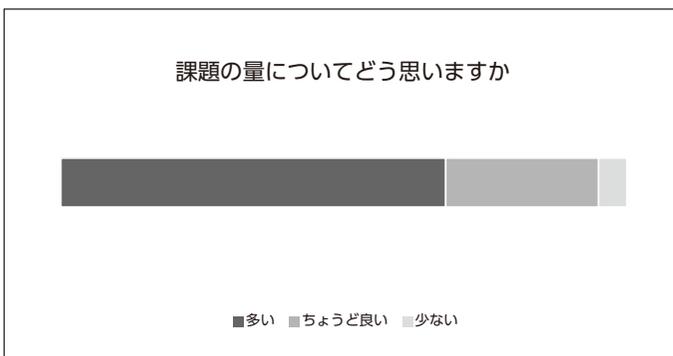


入っている 27%
入っていない 73%

Q3. 入っているサークルの種類は？

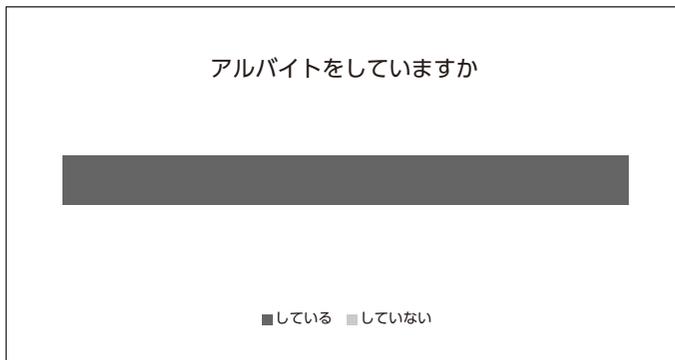
野球、ダンス、フラダンス、Fountain Commons、テニス、能

Q4. 課題の量についてどう思いますか。



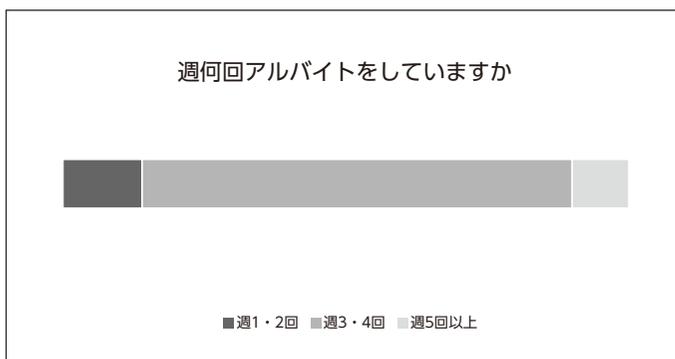
多い 68%
ちょうど良い 27%
少ない 5%

Q5. アルバイトをしていますか。



している 100%

Q6. 週何回アルバイトをしていますか



週1・2回 14%

週3・4回 76%

週5回以上 10%

第二外国語 中国語

GCE 松原 萌

1. この言語を選んだ理由

私がこの言語を選んだ理由は、中国語を話す人口が世界でとても多いと思ったからです。世界は今、アジアに対する関心が高く、たくさんの日本企業もアジアに進出しています。そのため、中国語を話せる人の需要が高まると考えました。

2. 学んでよかったこと

私は、オーストラリアに留学していましたが、本当にたくさんの中国人の留学生や移民の人々に出会いました。言語を学ぶことは文化を学ぶこと。中国語を学び、実際に彼らと話す機会を持ったことで彼らの文化に対する理解が深まりました。また、現在、就職活動の準備段階で、企業を調べたりしていくうちに中国語の需要がとても高いということがわかってきました。

3. アピールポイント

中国語は文字が漢字だということと、日本語と同じ表現があるので、日本人にとって親しみやすく、意味を理解しやすいという利点があります。さらに中国人観光客が増え、一般企業だけでなく、観光業などの需要もありそうです。

4. 中国語で一言

学习汉语非常有趣！欢迎参加汉语课！

(中国語を学ぶのはとても楽しいよ！ぜひ中国語クラスに参加してみてください！)

第二外国語 フランス語

GCE 水口 彰

1. この言語を選んだ理由

実ははじめ、中国語とフランス語のどちらにするのか悩みました。どちらも学びたかったというのが本音ですが、最終的にフランス語を選びました。理由としては、中国語は自主学習のためのテキストが本屋さんで豊富にあるのに対し、フランス語はあまり売られていないからです。その点フランス語は自力では学べそうもない言語だったので、大学で学ぶ意義があると考えました。

2. 学んでよかったこと

英語の語彙の約30%がフランス語から来ているので、英語の単語の意味を理解する助けになることがあります。実用的な面では、日本人でフランス語を話す人はまだまだ少ないので、英語に加えて話せるとかなりの武器になると思います。

3. アピールポイント

フランス語は一見難しそうですが、英語と文法が似ているところもあります。ですので、全くのゼロからのスタートではありません。さらに、先ほども述べたように、単語も英語と似ていますし、覚えるのはあまり苦ではないでしょう。先生方も、素晴らしい先生ばかりで、楽しくフランス語を学べる環境が整っています。フランス語を履修して後悔はないと思います！

4. フランス語で一言

Le Français, c'est très intéressant!!

(フランス語はとても面白いですよ !!)

第二外国語 ドイツ語

GCE 富吉 純平

1. ドイツ語を選んだ理由

幼少期に父の仕事の関係上、私はドイツに暮らしていたことがあります。残念ながら物心がつくかつかないかという非常に幼い時期であったため、当時の記憶はあまり残っていません。しかしながら、アルバムで昔の写真を眺めたり、親から当時の話を聞いたりしているうちにドイツという国に自然と親近感を抱き始めました。その中で高校の選択授業でドイツ語の授業を取る機会があったのですが、悲しいことに抽選で落ちてしまいました。このような理由から、大学で学べる機会があるならと迷わずドイツ語を選択しました。

2. 学んでよかったこと

日本での日常生活の中でドイツ語を使うことは正直に言って少ないですが、まれに使う場面に出会います。例えば父の友人であるドイツ人の方が日本に来た時や、現在アルバイトをしているホテルにドイツ語圏のお客さんが来た時です。拙いドイツ語ではありますが、しゃべって相手に

伝わった時、また相手が言っていることが理解できた時にドイツ語を受講してよかったと思います。卒業旅行ではドイツ語を受講しているメンバーでドイツへ行き、英語に頼らず、なるべくドイツ語だけで現地の方とコミュニケーションを図ろうと計画しているところです。

3. アピールポイント

ドイツ語は英語と親戚関係にあります。単語など英語と似ているものも多く、英語コースの皆さんであれば楽しく学べると思います。新しい言語を学ぶのはとてもチャレンジングなことではありますが、どの言語を選択するにしろ目的がはっきりしていれば学が意欲も湧いて、結果もついてくるはずですよ！

4. ドイツ語で一言

Mein Lebensmotto: Arbeite hart, spiele hart
(人生のモットー: Work hard, play hard)



1. GCCの雰囲気・魅力

私の思うGCCの魅力はアットホームであるということです。GCCは1学年全体で約40人ととても少ないですが、皆が仲良く大学生活を送っています。さらに、入学時からほぼ全員が中国語初心者ということもあり、同じスタート地点から互いに切磋琢磨しながら「中国語マスター」という目標を目指します。また、先生方も親しみやすく相談しやすく、かなり居心地良く感じています。



2. お気に入りの授業は何ですか

とても迷うのですが、一番は会話の授業でしょう。1回生から1クラス10人前後の少人数制で、先生との距離も近いうえに質問もしやすいので、授業に集中できます。先生も中国人なので、大学の授業でもネイティブ・スピーカーが使う表現が習えるところが楽しいと感じています。また、留学先でもこういった授業のおかげで、現地の中国人と話すことも初めから怖いと感じませんでした。

3. GCCを目指す後輩へ一言!

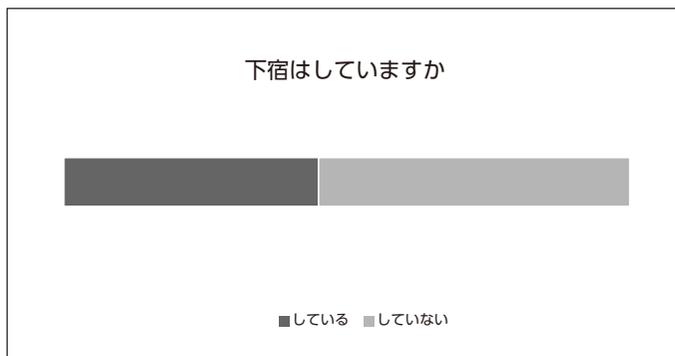
GCCに入学してくるほぼ全員が中国語初心者です。中国語を話せないといった不安は必要ありません。先生も先輩も優しく、しっかりサポートして下さいます。そして、1年間の留学やカリキュラムをこなしていくうちに、中国語の上達を身にしみて感じる事ができるでしょう。中国語に興味のある方、4年間楽しい大学生活を送りたい方、GCCにどうぞお越しください! 欢迎欢迎~~

アンケート結果

調査対象者：GCC1回生～4回生

回答数：47人

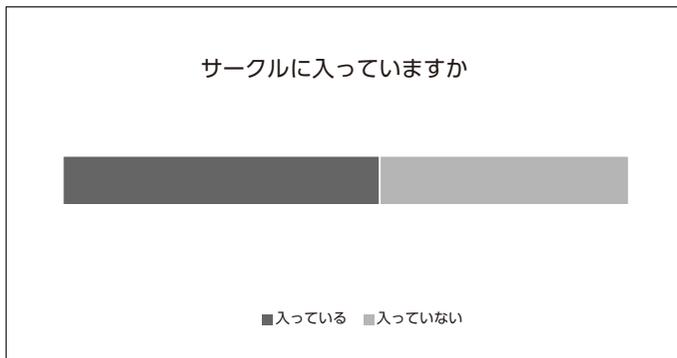
Q1. 下宿はしていますか。



している 45%

していない 55%

Q2. サークルに入っていますか。

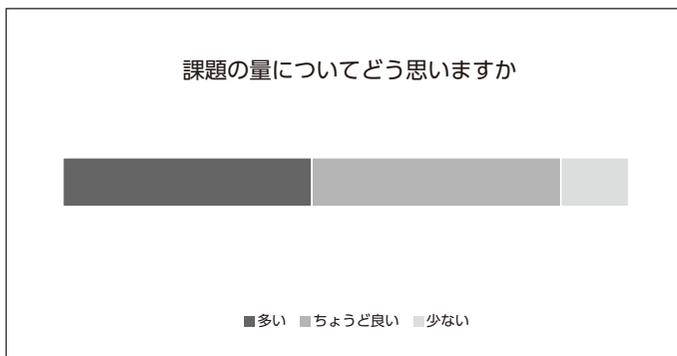


入っている 56%
入っていない 44%

Q3. 入っているサークルの種類は？

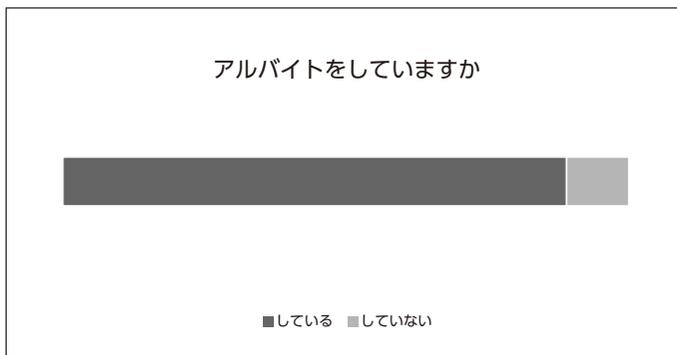
バドミントン、野球、テニス、国際ボランティア

Q4. 課題の量についてどう思いますか。



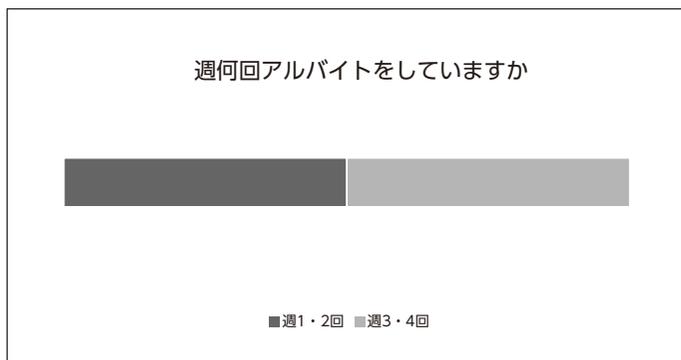
多い 44%
ちょうど良い 44%
少ない 12%

Q5. アルバイトをしていますか。



している 89%
していない 11%

Q6. 週何回アルバイトをしていますか



週3・4回 50%

週1・2回 50%



1. GCJの雰囲気・魅力

少人数で構成された学部の魅力といえば、深く付き合えることでしょう。クラスメートという関係にとどまらず、家族のような付き合いができます。LINEグループで食レポしたり、コース学生全員でカラオケに行ったりします。他の学部ではなかなか考えられないことだと思いますが、GCJでは日常です。騒がしい大家族をイメージしてください。私にとって、GCJは日本でのセカンドホームです。これからも家族のみんなと仲良くしていきたいと思います。

2. お気に入り授業

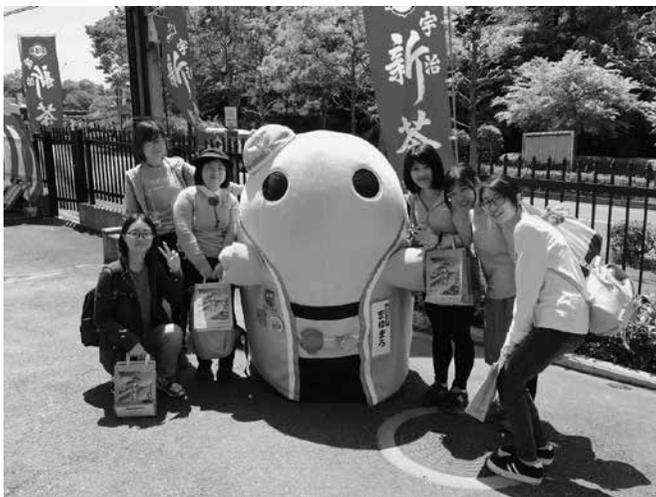
「日本語の構造」という授業がありました。この授業は日本語の発声練習をする授業ですが、発音の癖というものは、容易に直せるものではないので、全員が苦勞していたのを覚えています。授業内容の一部として、出された例文を読み上げて、その録音をPCで分析し、図式化します。声のボリュームだけではなく、声の高さまで視覚で確認できるので、どこがダメだったがすぐにわかります。私は運良く発音にはあまりつまづかなかったので、この授業は気に入っています(笑)。

3. GCJを目指す後輩へ一言!

やりたいことがあるなら、ためらうことなく、とことんやれ!

+プロフィール

はじめまして、中国からきた高です。高校卒業して思いつきで日本留学を決めました。目的もなくきてしまいましたが、最近日本の習い事にすっかりハマってしまって、本業が見えなくなりつつあるところです(笑)。



アンケート結果

調査対象者：GCJ1回生～4回生

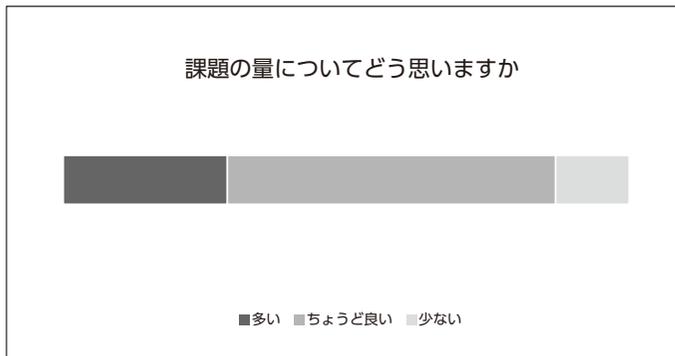
回答数：21人

Q1. 日本での留学を決めた理由は？

- ・昔から日本のことが好きだから
- ・日本語に興味があったと同時に、J-POP などの日本の現代文化が好きだから
- ・どのような外国語であれ現地で学ぶのが重要だと思ったから
- ・日本の教育制度がよいと思ったから
- ・せっかく学んだ日本語を日常でも活用したいと思ったから

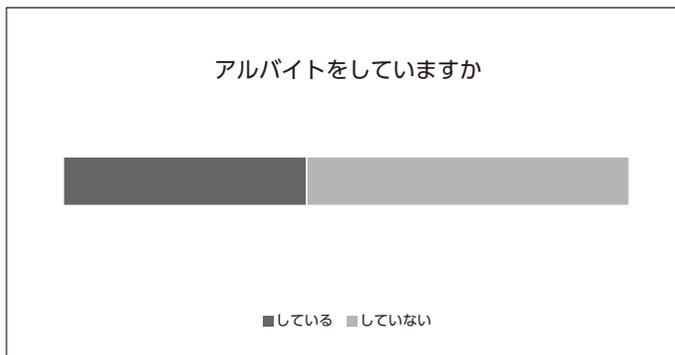
など

Q2. 課題の量についてどう思いますか。



多い 29%
ちょうど良い 58%
少ない 13%

Q3. アルバイトをしていますか。



している 43%
していない 57%

※アルバイトを週何回しているか、という質問にはみなさん同じで、週2・3回という結果でした。



OB・OG 休学した先輩 に聞いてみた！

Cosmos 第7号のテーマでもある「GCのその先へ」にぴったりの特集ではないでしょうか。実際に卒業生や先輩に貴重なお時間を割いていただき、これから先輩の背中を追い、また追い越そうとする私たちにとってとても貴重なお話を伺うことができました。ここには将来の「わたしたち」を探すためのヒントが詰まっていることでしょう。

山本 舞美

廣田 理也子 さん

英語コース 3期生 卒業生

1. なぜ GC 学部を選びましたか

どうしても高校生生の時に留学をしたかったのですが、親からの反対や部活との兼ね合いもあり諦めました。だからこそ大学では絶対留学したい!という想いで大学受験を考えていました。その想いから親に反対されないようカリキュラムの中に留学が必須で組み込まれている大学や学部を検討し始めたのが GC 学部との出会いでした。留学がカリキュラムに組み込まれている大学は関西で何校かありましたが、自分の高校に松木先生が学部の説明に来てくださり、「単に言語を学ぶ」だけでなく「異文化コミュニケーションを学ぶ」という考えに高校生ながら感銘を受けました。これだ!と思った瞬間でしたね(笑)。中学生の時に海外で経験した「言葉が通じなくても伝わるうれしさ」が何か学べるのは、外国語学部やコマース系の学部ではなくコミュニケーション学部なのだ確信しました。そして幸運なことに母校に GC 学部の指定校推薦枠があったので、必死に(受験組の皆様に対して僭越ではありますが……)勉強し、無事に合格したので GC 学部決めました。

2. GC 学部の4年間で得たものは何ですか

ありきたりの答えになってしまいますが、やっぱりこれしかないので言わせてください。GC 学部の4年間で得たものは「最高の人達との出会い」です。学部の友人や教授との出会いが社会に出てどれだけ大切か実感します。利害関係なしに素で付き合える人との出会いは社会に出ると難しいというのも少なからず事実です(※あくまでも個人の感想です)。大学時代も今も自分が悩んだ時に支えになってくれる存在はやはり長年を共に過ごした大学の友人で、進路等で悩んだ時に親のように支

えてくださったのはゼミの教授である竹田先生でした。卒業しても会いたいと思えるような存在に出会えたことは、人生において非常に価値のあることだと考えます。もう一つは「根拠なき自信」ですかね(なんかナルシストみたいで申し訳ございません……笑)。これって学生の頃も社会人になっても意外に大切ではないでしょうか。GC 学部での学びは実に自分のスキルアップにつながるものでした。海外留学や少人数でのディスカッション、英語でのプレゼン、留学生と共同プロジェクトのセミプロ等々を経験している GC 学部生って、知らず知らずのうちに「社会に出ても恥じないコミュニケーション能力」を磨いていると思います。私は今の業務において、日々和訳や海外とのテレビ電話、英語でのプレゼン等と格闘しておりますが、根拠なき自信から「あの大量の英語の課題をこなしていたから何とかなるっしょ」というポジティブな気持ちで業務に向き合っています。皆さんも日々の授業をただの授業と思わずに取り組む事で得るものも異なってくると思います。



3. 就活を始めた時期と就活をする上で大変だったことを教えてください

就活を始めたのは3回生の夏前ですが、本格的な開始は3回生後半の2月頃です(ごく普

通の就活生タイプです……笑)。3回生の夏に人並みにインターンはしようと思い、人材系大手ベンチャー企業のインターン1つと後は1dayものを何回かするだけでした。自分自身「インターンモンスター」になる学生生活を送るよりも、「悔いのない」学生生活を送りたかったので、夏季休暇の際も「就活で個性を出すための引き出し作り」に注力しました。元々自分が所属していた海外ボランティアの活動や一人旅など「自分しか語ることのできない経験」を見つけることに奮闘し、実際それが就活で役立った実感もあります。大変だったこととしては、「OB・OG訪問」ですね。関西在住の学生であれば誰しも一度は大変だったと感じたでしょう。時間やお金の問題だけでなく、新設学部のために卒業生の母数が少なく、かつ、日系大手企業だと同志社全体でもOB・OGの方を探すのが大変です。だからこそ学内外問わず「人とのつながり」を学生時代から意識することが重要ではないでしょうかね（※あくまでも個人的な感想です）。

4. 4年間でこれだけはしておくべき！と後輩に伝えたいこと

“Become friends with people who aren't your age. Hang out with people whose first language isn't the same as yours. Get to know someone who doesn't come from your social class. This is how you see the world. This is how you grow...”まさにこれです!! (笑) 私は留学中にこの引用と出会い、学生時代はこれを意識し続けていました。年齢、国境、性別、職業、生活水準、いろいろな違いを持った人と出会うことが重要であるというのは、GC学部の優秀な学生の皆さんであれば理解はしているでしょう。しかし実際月収1万円以下という生活水準の人と言葉が全く通じない中で生活したことありますか？ シリコン



バレーの起業家と話したことは？隣の家のお爺さんに悩み相談したことは？……だまされたと思って是非実践してみてください！

5. GC 学部で得た知識などは、社会に出てどのように役立っていますか

これに関しては上記の「GC学部の4年間で得たもの」で触れたとおり、私は比較的GC学部で得た知識が社会に出て、役に立っていると早い段階で実感しています。もちろん、業界や職種によってはGC学部の知識が即戦力につながるわけではないかもしれませんが、「学びが役立たないと不満を言う」ことに時間を費やすのではなく、「いかに、どこで、GC学部での学びを活かせるか」を考えることに時間を費やせる人間になれば素敵ですよ。

6. 最後に GC 学部での学生生活を一言でお願いします！

【家で作る水炊き】

広告代理店勤務にも関わらずセンスのない答えで申し訳ありません(笑)。どういう意味かということ、水炊きって基本的に味は似ているじゃないですか。「GC学部」というベースの水炊きは基本的に各家庭で似たり寄ったりですが、履修する授業やGC学部外での活動など「具材」が異なり、少しずつ味が変化しますよね。さらに次の日にカレー鍋やトマトリゾットにもできるように、自分次第で様々な味付けが可能です。「GC学部」という水炊きに、だしが見えないくらい具材を詰め込み、和洋中様々なスープを追加したのが私のGC学部での学生生活でした。

井上 諒一 さん

英語コース 3期生 卒業生

1. なぜ GC 学部を選びましたか

まず、自分の興味のあることと、GC 学部で学べることが一致したからです。高校2年生の時に、短期交換留学でボストンを訪れました。小さい頃から英会話に通っていたため、英語で話すことに対しては抵抗がありませんでしたが、実際は現地の高校生の輪に入って行けず、寂しい思いをしました。一方で、自分が話す英語が予想以上に相手に伝わったことに驚き、自信がついたのを覚えています。このボストンでの経験を機に、自分の英語力をさらに高めたい、高めることで知らない世界を知りたいと思うようになりました。実践的なカリキュラムを通して、英語で円滑なコミュニケーションが取れる人材を育成することが GC 学部英語コースの目的の1つだと思います。海外の人と仲良くなりたい、ボストンで入ることのできなかった友達の輪に入りたい、と思ったことが GC 学部で学ぼうと思った最初の理由です。

もう一つは、大学卒業時点で何か能力（強み）を身に付けたいと思ったからです。もちろん、他の学部でもいろいろな資格を取ったり、能力を身に付けたりできると思いますが、大学卒業後は海外と関わる仕事がしたいと思っていた私にとって、実用的な英語力というのは非常に魅力的なものでした。この学部

で学ぶことによって、自分の夢に近づけるのではないかと、そんな期待を持てたのが GC 学部でした。

2. GC 学部の4年間で得たものは何ですか

まずは、行動力です。GC 学部の学生には他学部の学生よりも行動力があり、何でもやってみようとする学生が多いと思います。自分自身はあまり行動力のある人間だとは思いませんが、周囲から影響を受けて、入学前と後では、何事にも積極的に行動を起こすようになったと感じます。1年間の SA も行動力を養うには良い機会だと思います。私も休みの日にボランティアやインターンシップ等、大学生以外のコミュニティに積極的に参加しました。SA 前の1回生は是非、留学先でいろいろなことに挑戦して下さい。もう一つは、気の合う友人です。社会人になるといろいろなタイプの人たちと付き合うことになります。もちろんそれはそれで楽しいのですが、必ずしも全員と気が合うとは限らず、苦手な人とも仕事上関係を築く必要があります。4年間の学生生活を共有した仲間は、頼りになり、刺激を受けることのできる存在だと感じます。学生の時は毎日のように顔を合わせていた友達でも、卒業後は疎遠になりがちです。今いる仲間を大切に。卒業後の大きな財産になります。

3. 就活を始めた時期と就活をする上で大変だったことを教えてください

本格的に就活を始めた時期は、3月でした。ただ、チャンスがあるなら、それ以前からインターンシップ等に参加するのも良いと思います。就活で大変だったことは、On と Off の切り替えです。就活が本格的に始まると、



毎日のようにES（エントリーシート）の締め切りに追われたり、面接の準備に焦ったりします。四六時中、就活のことを考えていると、常にストレスの掛かる状態になり、それでは良い結果は出ません。一日、一週間の中で就活のことを一切考えない時間を作る、それが不可能でも何か自分の趣味に充てる時間を作ることが非常に大事だと思います。困みに私は、当時はまっていた海外ドラマを毎日1話見ることを楽しみにしていました。ストレスをため過ぎないことは、数か月続く就活の上で非常に重要なポイントです。

4. 4年間でこれはしておくべき！と後輩たちに伝えたいこと

大前提は、何でも自分の好きなことをやることが一番だと思います。ただ、大学生の最大のメリットは時間があることです。社会人になると自由な時間は圧倒的に少なくなります。何か時間の掛かることに挑戦してみてください。一番分かりやすい例は、長期の旅行。私は夏休みにブラジルに2週間程滞在しましたが、同じことは社会人になってからでは簡単にはかきません。GC学部の先輩の中には、風呂敷だけで世界一周した先輩も、ヒッチハイクだけで日本縦断をした先輩も、1年間アフリカでインターンシップをしていた先輩もいます。今何かに挑戦しようとしていて、経済的な理由で躊躇しているなら、借金をしてでも挑戦してください。お金は後からでも返済できますが、時間は返って来ません。何か一つのことを時間をかけられるのは、非常に恵まれたことです。

5. GC学部で得た知識などは、社会に出たどのように役立っていますか

発表の仕方、会話の運び方、文章の書き方などは、卒業後、すぐに役に立つと思います。現在、海外営業の部署に配属のため、英語を使ったコミュニケーションは日常的に行っています。基本的には、メールベースのコミュニケーションなので、GC学部で学んだメールの書き方は非常に役に立っています。

Practicalな部分に関しては、GC学部以外でも学ぶ機会はあると思いますが、この表現で伝わるか、この言い回しで誤解を与えないかなど、表現方法を考えたり、工夫したりすることは、GC学部で学んだからこそスムーズにできることだと思います。今後、実際に顧客の前で売り込みをしたり、交渉をしたりするようになると思います。その時に、GC学部で培ったコミュニケーション能力を発揮することができればいいなと考えています。

6. 最後にGC学部での学生生活を一言でお願いします！

GC学部での学生生活はあっという間に終わった印象です。4年間の学生生活というのは長いようで短いです。特に2回生でSAに行くGC学部の学生はそう感じると思います。私は帰国後に自習室にいるのが2学年下であることに驚愕しました。既に述べましたが、学生である特権をフルに活かして、自分のやりたいことに、思いつく限り挑戦して下さい！



休学をされた先輩

木村 紗矢香 さん

英語コース 4回生



1. なぜ GC 学部を選びましたか

自分の興味と特性に最も適した学部だったからです。私は宮城県石巻市で生まれ育ち、高校1年生の時に東日本大震災を経験しました。その時から、支援して下さった世界中の方々之恩返ししたいと思い、将来的には世界経済のボトムアップに貢献することでそれを実現しようと考えていました。とは言え当時の私の英語力はおぼつかない日常会話ができる程度。国際協力や経済等の知識も必要ではありますが、まずは徹底的に英語を使えるようになることが最優先と思い、異文化理解を含む「生きた英語」を実践的に習得できるGC学部を選びました。入学前は特に、1年間の留学を必須としながらも4年で卒業できるカリキュラム、少人数体制での授業、学部生のレベルの高さに魅力を感じていました。実際、入学前と入学後でこれらのイメージにまったくギャップがなく、充実した学生生活を送ることができました。

2. 休学を決めた時期とその動機を教えてください

休学を決めたのは3回生の2月末でした。就活解禁の2週間前に青天の霹靂のごとく(笑) 休学の目的は、自分の「やりたい」に素

直に従うことで、キャリアの判断材料を得ること、そしてじっくりと時間をかけて自分を見つめなおすことの2点でした。休学中は、ケニアでボランティアを、ウガンダでビジネス・インターンシップをし、東・南部アフリカでバックパックをし、約9か月間をアフリカで過ごしました。

当時、就活を目前に完全に自分を見失っていて(笑) 数か月間モチベーションが低迷したまま、仕事として本当にやりたいことも見つからない。なんとなく日系の民間企業に就職して、その後で以前からの夢だった国際貢献について考えればいいのか、とぼんやり思っていました。そんな時にある学生起業家の方と出会い、「やりたいこと」の重要性・貴重さに気づかせていただいたんです。それまでの自分の人生を振り返ってみれば、Must (やらなければならないこと) と Can (できそうなこと) だけで選択してきた、Will (やりたいこと) がなかったなあと反省。そんな自分を変えるのは今しかない、思い切って唯一の Will だった「アフリカで働くこと」への挑戦を決意し、休学を決めました。迷いは一切ありませんでした。当時、周囲からは賛否両論ありましたが、もちろん不安もありました。でも、もう私の心は決まっ



ていたので、できない理由よりできる方法を探して突っ走ってましたね（笑）あの時の高揚感は、今も忘れられません。

3. 休学を通して得たものは何ですか？

休学期間中は、本当にたくさんの貴重な経験と数多くの素敵な出会いに恵まれました。そこで得たものは数えきれない程ありますが、1つ挙げるとするならば、思わぬ形でキャリアの道が開けたことです。

まず、ウガンダでのインターンを通じて、自分が生涯を通してやりたいと思えることが見つかりました。それは「働く人々の生きづらさをなくしたい」ということです。インターン時にストレスと生産性の相関関係を肌で感じる経験をしました。当時、日本人マネジャーと現地スタッフ5名でコミュニケーションがうまくいかず、全員が強いストレスを抱えていました。私は、苦しむ現地スタッフを助けたい、事業のためにも彼らに仕事を楽しくしてほしいと思い、ストレス解消や承認欲求の充足のために個人的にアプローチしました。2か月経ったとき、事業の業績が大幅に上がり、現地スタッフが以前より生き生きしているように見えたのです。かなり主観的でおごった見方ではありますが、私の取り組みが少しは役に立ったのではないかと思います。そこで、人々のエネルギーをストレスに耐えるためではなく物事を前に進めるために使うことで、その人自身を、その組織を元気にしたいと思い始めました。そして、多くの人が人生で最も長い時間を過ごし、悩みを抱える「企業」にフォーカスし、ファーストキャリアとして組織コンサルタントの道を選びました。

そして、アフリカでの何気ない日々が、自分の価値観に基づいた進路選択へとつながりました。途上国あるあるですが、買い物でも移動でも、現地人との価格交渉によって値段が決まるんですね。私も初めはぼったくられないように、なんでも事前に相場を確認してから交渉するようにしていました。しかし、ある時を境に相場ではなく、自分にとってのそのものの価値を随時考えて価格や買うかど

うかを決めるようにしたのです。それを続けていくうちに、買い物だけでなくあらゆる物事に対して自分にとっての価値や費用対効果を意識するようになり、徐々に自分の選択に強い納得感を持つようになりました。そうした習慣が就活においても活かされ、企業の知名度や待遇に固執することなく、自分と企業の価値観でのマッチングを重視した心の底から納得する意思決定をすることができました。

4. 4年間で「これはしておくべき！」と後輩たちに伝えたいこと

「ビビらずにガンガン突っ込んでけ!!」と声を大にして言いたいです（笑）これは、私自身の4年間で振り返っての最大の反省点です。

新しいことに挑戦する、未知の環境に身を置く、面識のない人に会いに行く。私にとっては、どれも怖いことでした。特にGC学部の学生のように、人の感情や状況の変化を繊細に感知できると、なおさら一歩引いてしまう気がします。でも、それってすごくもったいないなど。ビビっているときって大体自分で全部決めつけているだけだと思うので。「こう思われたらどうしよう」「自分にはできないかもしれない」そんなことは聞かなければわからないし、やってみなければわからないはずです。そうやって自分で自分の可能性を狭めないでほしいですね。もし何かに失敗しても学生のうちに失うものなんてたかが知れているので、現在地よりも変化率を意識してGCでの日々を楽しんでもらえたらと思います。

5. 最後 GC 学部での学生生活を一言でお願いします！

自分次第で『世界』は拓ける!!



GC 学部 セミプロ特集！

4回生よりスタートするセミナー・プロジェクト（セミプロ）は、英語コース、中国語コース、日本語コースの学生が協力して作り上げるプロジェクトです。GC 学部での学びの集大成です。どのグループも最初は壁にぶち当たりながらも、同じ目標に向かって切磋琢磨する姿勢が強く見受けられました。それぞれの個性が強い GC 学部生によってできあがる、ユニークでかつ創造力にあふれた素晴らしいプロジェクトを一読してみてください！

山本 舞美

GC Travel Agent

大西 真鈴



セミプロの趣旨・ゴール

「ガイド活動を通じた地域活性化」

私たちは、最近増え続けている訪日外国人に焦点を当て、もうすでに有名な地域だけでなく、まだ世界に知られていない日本の素晴らしい町・地域を外国人の方に知ってもらい、地域全体を潤し、明るくしたいと考えています。具体的には、私たちが地域の魅力を発信し、日本のガイドをしてもらいたいという外国人の方を集めて、実際にガイドを行い、経済効果を得る。さらに、実際に訪れた地域を外国人の方に発信してもらい、認知度を広めていくという趣旨のもと活動しています。

・私たちができること

- 留学を通して習得した語学力・コミュニケーション力を活かしたガイド
- SNSを利用して世界の各地域へ私たち団体について発信
- 現地の人しか知らない日本の魅力を伝えること

セミプロの印象・雰囲気・活動内容

セミプロを始めたばかりの頃は、チーム内で意見が衝突し、まとまりがありませんでしたが、リーダーを中心にもう一度、今の状況を見直し、再スタートを切りました。活動内容は、例えば、4つの地域（京田辺、池田、宇治、伏見）のガイド作成や外国人観光客が多く利用する hostel やゲストハウスの方々とコンタクトを取り私たちのプロジェクトの認知度を広めるための営業活動を行います。他にも、JTG

(Japan Tour Guide : 学生団体) ・京都府庁とのコラボレーションを実現するための企画や学園祭の出店準備といった活動があります。

将来に生かしたいこと

直接的であれ、間接的であれ、どのような仕事でもその先には必ず「人」＝「お客様」がいると思います。私たちのプロジェクトは、日本を訪れた海外の方にガイドを行うので、まさに直接的に「人」と関わります。この取り組みの中で改めて気づかされたのは、相手の立場に立って物事を考える大切さです。私たちが「〇〇〇がしたい。」ではなく、その先にいるお客様のことを考えて行わなければなりません。例えば、言語はもちろん相手の文化に目を向けることも大切なことです。そして、相手の立場に立って考えることはチームの中でも大切なことだと感じました。1つの目的に向かってチームで何かを成し遂げるために、それぞれが相手を思いやる気持ちがなければうまくいくものもいかないのだと改めて気づかされました。このセミプロでの経験を活かして、春からの社会人生活ではそれぞれの舞台上で常に相手の立場に立つこと、思いやることを大切にしていきたいと思っています。





日本の祭りを 世界に！

国際交流

×

地域活性

上田 未来、山本 真彩

セミプロの趣旨・ゴール

「国際交流を通じて相互理解を助長し、グローバルマインドの発達を目指す」

当プロジェクト、『Oh!MATSURI』は、「国際交流の促進」と「地域活性化への貢献」という2つの軸があります。具体的には、地域の方と協力し、留学生に関西の（あまり知られていない）祭りや伝統行事に参加してもらうことで日本文化の素晴らしさを実感・理解してもらいます。同時に、祭りの参加人数の増員や知名度の向上につなげ、その地域の活性化にも貢献することを目指しています。このように、祭りを通して留学生と地域の方々が交流できる機会を設け、互いの文化理解を促します。



セミプロの印象・雰囲気・活動内容

リーダーシップ溢れる頼もしいメンバーが揃い、活発なクラスです。メンバー一人ひとりが主体的に活動に取り組んでいます。週1回の授業に加えそれぞれの祭りの事前練習・行事・打ち合わせ等にも参加し、留学生の勧誘だけでなく祭り本番までの準備、当日の運営にも携わっています。9月には大阪の八尾河内音頭まつりで盆踊りの世界記録に挑戦し、見事達成しました。10月に参加した木津御輿太鼓祭りには運営から関わり、地域の方との交流も活発に行われました。

将来に生かしたいこと

当プロジェクトを通して、チーム全体で活動することの大変さと、個人の役割を責任をもって果たすことの大切さを学びました。役割分担をし、一人ひとりが主体的にやるべき仕事を明確にすることで活動全体が円滑に進みました。時にぶつかりながらも仲間と協力し合った時間は大学時代のかげがえのない思い出の1つとなりました。この経験を通して身につけたチームの一員として責任を全うする力を、社会で存分に生かしていきたいです。

世界のことを
考えよう！

国際理解 教育 プロジェクト

林 優希



セミプロの趣旨・ゴール

「地域の小学生に、世界に目を向けてもらい、国際理解を促す」

最近では日本にいても海外の情報は入ってきますし、日本を訪れる海外からの観光客も増え、今の小学生は私たちが小学生の頃に感じていたよりも、海外をより身近なものとして感じているのかもしれませんが、しかしメディア等を介して入ってくる情報は限られたものです。また、世界は今、様々な問題に直面しています。そういった問題の解決は、多くの境界線を越えた協力、そして理解なくして達成できるものではありません。私たちはこの活動によって、小学生がさらに日本の外に目を向け、視野を広げるきっかけを作りたいと願っています。

セミプロの印象・雰囲気・活動内容

全体的には和やかな雰囲気です。春学期の山場は精華町にある東光小学校での授業でした。低学年担当、中学年担当、高学年担当の3つの班に分かれて活動し、それぞれ前述の目標を念頭に、担当する児童の年齢に適したレベル・内容になるよう授業内容を構成していきました。私たちが小学生であったのも遠い過去の話。さらに普段小学生と関わる機会などほとんどなく、どの辺りを目指すのが妥当か、どの班も手探り状態でした。当日も皆一抹の不安を抱きながら授業に臨みましたが、後の反省会では、児童の反応がかなり良く、多くの質問も出て、とても盛り上がったという声がどの班からも聞かれました。

将来に生かしたいこと

本セミプロでは、「何かを企画し、その実行に向け準備し、そして実際に運営する」という力が養われると感じています。こういった力は社会に出て大いに求められるものです。また授業というものは、前に立つ者とその授業を聞く者という2方向からの相互作用で成り立つものです。よって、綿密に計画を立てることももちろん大切ではありますが、当日の児童の反応や興味・関心などの変数を考慮しながら、それらに臨機応変に対応することも、本プロジェクトの要です。本番と計画の間にずれが生じて、それに柔軟に対応するという力もまた、これから多くの場面で役に立つ力であると思います。

模擬貿易

プロジェクト

加藤 真章

セミプロの趣旨・ゴール

「遠い世界で起きている問題は、私たちと全く無縁のものでなく、実は身の回りのものと深い関わりがある」

これが私たちの伝えたいメッセージです。普段何気なく手に取っている商品の背景にはいろいろなストーリーが、遠い世界で起きている問題を自分たちと無関係と考えるのではなく、身の回りの商品の背景を知ってもらいたいという思いがこめられています。また、それを通して国際問題に少しでも興味を寄せてほしいというのが私たちの願いです。学園祭や中学校訪問を通して、様々な問題に対する答えを提示するのではなく、多くの人に考えるきっかけを与えられるよう頑張っています。

セミプロの印象・雰囲気・活動

個性的なメンバーがそろい、とても活発なクラスです。春学期はクラステーマ



を決め、ゲストスピーカーを呼び自分たちの貿易に関する知識を深めました。ゲストスピーカーに、貿易に関するお話をさせていただくことにより、クラス全体の進むべき方向が定まりました。秋学期にはクローバー祭での出店、中学校訪問がありました。クローバー祭では京田辺産の果物を使ったキャンドルづくり、中学校では「身の回りにある商品の背景に思いを寄せてもらう」というテーマで授業を行いました。どのプロジェクトもさまざまな人からの協力を得ることにより成功に導くことができました。

将来に生かしたいこと

このセミプロでの経験は将来社会で交渉の場や会議の場で活きて感じています。セミプロのスタート時は、誰も何をしたらよいのか分からない状況でした。そんな中で行う話し合いは大変困難です。また、さまざまなバックグラウンドを持ったメンバーが集まっているので、意見も多様です。その中で培った、互いの意見を尊重しあいながら1つの物事を決めるという経験は必ず将来の様々な場で生きてくると感じています。



Share Kyoto

前川 和美

セミプロの趣旨・ゴール

「日本全国そして海外に京都のあまり知られていない魅力を発信する」

具体的には京都在住の方を対象とした穴場スポットに関する調査やそれを基にした外国人観光客の方々対象の小グループツアーの企画と開催、インスタグラムでの情報発信、観光マップ作成などを行っています。また、アンケート対象者やセミプロメンバーのほとんどが日本人であるため、日本人の視点から見た魅力に偏らないよう、開催ツアーの参加者からも参加後に感じた京都の新たな魅力を伺うことで日本人にも外国人にも楽しんでもらえる情報発信を目指しています。

セミプロの印象・雰囲気・活動

初めは日・中・英3コース合同ということもあり、意見を出し合う際などにぎこちなさがありました。小グループごとの活動や空き時間に行ったゲームなどを通して徐々に打ち解けてきたように感じます。秋学期からは、活動がより忙しくなるとは思いますが、メンバー全員がセミプロでの活動やメンバーとの交流を楽しみに思ってもらえる雰囲気作りを心がけていきたいです。卒業後も忘れられないような素敵な思い出をたくさん作れたらいいなと思います。



将来に生かしたいこと

セミプロを通して京都を深く知り、魅力を改めて感じたのはもちろんですが、「皆で1つのものを一から作り上げる」という経験から学んだことも多くあります。例えば、京都の魅力をうまく伝える方法を考えることでニーズを汲み取る力を養ったり、リーダーとしての活動から、メンバーのことを考えながら指示を出したり意見をまとめるためにはどうしたら良いかや、一人ひとりがプロジェクトに積極的になれるように促すためのコツを学ぶこともできました。社会人になると大勢の人と協力して一から何かを作り上げる機会が増えると思うので、セミプロで学んだことやリーダーの経験を活かして周りに良い影響を与えていきたいです。

Film Festival

野田 アンナ

セミプロの趣旨・ゴール

「外国人を対象にした映画祭の実行」

上映作品は5分から10分程度の短編作品で日本文化が表象されたものを対象とし、集まった作品を翻訳して、そのいくつかを京都の錦湯という銭湯で上映します。銭湯での映画祭を通じて外国人の方に日本文化を知ってもらうとともに、留学を経た GC 学部生も改めて日本文化について映像を通して考えていくことがこのプロジェクトの目的です。

セミプロの印象・雰囲気・活動内容

今年度初めての試みになるので、最初はチームの意識や目標を1つにするのが大変でした。さらにこのプロジェクトでは、上映する作品すべてに自分たちで英語・中国語字幕を付けます。しかし、ほとんどのメンバーが字幕翻訳初心者だったので、最初は字幕翻訳の講師を外部から招いて勉強するところから始まりました。字幕翻訳を実際に経験することで、留学を通じて培った語学力をこのプロジェクトでも活かすことができました。



将来に生かしたいこと

1つのチームの中でも、個々人が持つ考えや役割はそれぞれ違ったものになります。意見の衝突等も当然ありますが、互いの考えを尊重し協力し合って作業をすることが卒業後に属する組織やコミュニティでも重要になってくるのかなと思います。セミナープロジェクトを通じて、組織の中での自分の役割を意識する感覚が身につきました。時間はかかりましたが、チーム一人ひとりが協力しながらなんとか形になろうとしているので、このプロジェクトが一生の思い出になるよう最後まで頑張りたいと思います。



○○○○○○

外国語活動 と留学経験 の語りを通 して、 留学のすば らしさを伝 えよう

立川 亜弥

セミプロの趣旨・ゴール

「外国語活動と留学経験の語りを通して、留学のすばらしさを伝えよう」というタイトルですが、伝える相手は小学生です。留学と言っても小学生には少し想像しづらいだろうと考え、まず「海外に興味を持ってもらうこと」を大きなゴールとして活動しています。全コース合同のセミプロだからこそ準備できる様々な国やその言語に、大学生だからこそできる企画を通して触れて考えてもらえるよう企画を考えます。

セミプロの印象・雰囲気・活動内容

各学期1回ずつ小学校を訪問して、考えた企画を実行します。具体的には、小学生に何をするのか、そのためには何が必要か話し合い、本番に向けた準備や練習を重ねます。セミプロの雰囲気として一言で表すなら「和気あいあい」です。企画の対象が小学生で、その子どもたちが楽しめるように準備していくので、自分たちが小学生の頃はどうかだったかということや何が楽しかったなどの話題が自然と出るので、話し合いや準備も楽しく進みます。

将来に生かしたいこと

企画の対象は小学生ですが、先生方そして小学校とも連絡を取り協力していかなければいけません。楽しくというだけでなく、小学校側が何を求めているのか、私たちは何を与えたいのか、小学生に何を受け取ってほしいのかなど、関わる全ての人の立場に立って企画から実行まで運んでいくことの難しさと大切さを学べます。社会人になってからではなく、学生のうちでも人と関わるうえでこのことは活かしていきたいと思います。



課外活動 発祥サークル紹介

さて、ここでは GC 発祥サークルと GC 生たちが活躍する課外活動を紹介します。学校の授業や課題の他にも自らの活躍できる場を模索し、自発的に行動するのが GC 生たちの特徴と言えるでしょう。ここで挙げたのはごく一部に過ぎませんが、ぜひどういった活動があるのか参考にして下さい。

山本 舞美



テイラーズ大学インターンシップ バディプログラム

川見 将紀

テイラーズ大学インターンシップバディプログラムとは？

私は7月末から8月の上旬まで、マレーシアのテイラーズ大学からインターン生として同志社大学へやってきた2人の学生たちのバディとして、このプログラムに参加しました。このインターンシップの目的は、インターン生が日本の大学のシステムや大学職員の仕事について学ぶこと、また日本文化を学び、体験することです。そのプログラムの中で、計6名の学生バディは様々な面から彼らをサポートしていきます。

参加した動機は？

夏休み中は昼間に時間があるので何か新しいことを始めたかったこと、また、留学から帰ってきて機会が急激に減少していた国際交流ができるプログラムに参加したかったからです。両校地で選考が行われ、無事に6人のバディの1人として選ばれました。

活動内容を教えてください

まず初めにキャンパスツアーやお互いを知るための交流会を行い、それから私た

ちバディは大学職員の業務内容を紹介するプレゼンテーションを行いました。その他にも「働くということ」や「人生経験と将来のプラン」について熱いディスカッションもしましたが、意見交換をする中で日本とマレーシアの国民性や文化の違いを学びました。プログラムの後半では、インターン生に日本文化を体験してもらうため、錦織体験やミュージアムを訪問しました。まとめとして、このプログラムを通じて学んだことについて全員が発表を行いました。

参加して得られたことは何ですか？

インターン生は日本語を話さないため、このプログラムは基本的に全て英語で行われ、日英の通訳をする機会も豊富にあるので、ある程度の英語レベルは求められます。しかし、何より大切なのは、彼らインターン生をサポートし、双方が新たなことをより多く学べる場を作ろうという気持ちです。このような場で、他国の文化だけでなく、日本文化についても深く学ぶことができた非常に充実したプログラムだったと感じています。



タンデムパートナー

水口 彰

タンデムパートナーとは？

タンデムパートナーとは GC 学部内でのランゲージエクステンションのことで、英語、中国語、日本語コースの学生がそれぞれの得意言語を教えあうというものです。タンデムという言葉には「2人乗り自転車」といった意味があります。それぞれが息を合わせて、言語の面で協力しあうことを目標に、タンデムパートナーという名前になったようです。タンデムパートナーの取り組みで、普段交流の少ないコース間での交流が少し活性化されたのではないかと思います。

参加した動機は？

中国語を話す練習をしたかったのですが、なかなかそういう機会が京田辺にはありません。下手なりに話す機会を作るのは大事なことだと思っていたので、タンデムパートナーのプログラムがあると聞いた時すぐに参加を決めました。

活動内容を教えてください

タンデム「パートナー」ということでしたが、僕たちは5~6人程度のグループで月曜日のお昼に集まって行いました。基本的には何もトピックを決めずに、週末に何をしたかなどを話したり、中国語でわからないところや、日本語でわからないことを質問し合ったりしました。

参加して得られたことは何ですか？

活動を通して、中国の留学生と知り合えたことが一番良かったことだと思います。言語を勉強する上で、実際にその言語を話せる友達がいることはモチベーションにもつながります。とても良い経験でした。



JEMUN

岩田 咲紀



JEMUN とは？

JEMUN とは、Japan English Model United Nations の略称で、日本語では「日本英語模擬国連大会」という名称です。大会の目的は現在国際社会が抱えている問題や、それらの問題に対する国連の役割を考えることです。様々な国籍の大学生・高校生が世界各地から集まっており、大会の共通言語は英語です。参加者は実際の国連のようにそれぞれの国の代表になって、活発な議論を交わしながらそれぞれの国が合意できるよう、協力的に問題解決を模索します。また、記者として参加することもでき、大会中に取材をしたり雑誌を作ったりします。2017年6月23

- 日から25日に行われた JEMUN では、
[Sustainable Tourism] をテーマに、
①Tourism and the Sustainability of
the Natural and Cultural
Environment
②Achieving Accessible Tourism



- ③Sustainable Tourism in the
Caribbean Island Nation-States
④Crisis Committee:The Tourism
Emergency Response Network
という4つの議題を扱いました。同志社
大学からは Calum Adamson 先生のク
ラスを中心に26人が参加し、大学部門
で優秀賞に輝くことができました。

参加して得られたことは何ですか？

私はジャーナリストのマガジンチームとして JEMUN に参加し、コミュニケーションの大切さを改めて認識しました。JEMUN では一つのゴールに向かって進んでいく過程で、参加者一人ひとりのアプローチ方法が異なる場面が幾度となくあります。時間的な制限が多い中で、意見の違いをお互いが納得できるよう次のアクションにつなげていくのは大変でした。しかし、諦めずに対話を重ねて雑誌を形にできた時の達成感、チームで達成できた実感が強く本当に頑張ったよかったと思いました。反省点も多々ありますが、お互いの弱点をカバーしあえるパートナーとプロジェクトを進められて楽しかったです。来年もぜひ参加したいです！



FOUNTAIN COMMONS



ウルフ 彩七 まゆり

FC とは？

Fountain Commons (FC) は、グローバル・コミュニケーション (GC) 学部の1期生が創設した国際時事勉強会サークルです。FCは「知の泉」という意味で一人の小さな水滴のような知識もみんなの知識が集まれば泉のように湧き出でくるといった想いで名付けられています。現在メンバーは約30人で、週に一度担当の学生が時事問題についてプレゼンし、それについてメンバーでディスカッションを行っています。その他にも GC 学部の学生向けの活動も行っています。



< ディスカッションの様子 >

雰囲気を一言で

和気あいあいと日々のフレームワークを作っています！

FC で身につけられる能力

- ・プレゼン能力 (寺西先生にプレゼン、ディスカッションを評価していただけます。)
- ・世界で起こっていることについて自分の立場から考え、意見を持つことができる。
- ・ディスカッション能力
- ・進んで行動する力



< プレゼンの様子 >

FC の魅力をどうぞ！

週に1回の昼休みを自分磨きの時間に使ってみませんか?! これから社会に出て行く学生、特に GC 学部の学生として必要な能力を FC メンバー全員で身につけていきましょう。私たちはいつでも「ぶっとんだ人材、ぶっとびたい人材」募集中です。



< FC の幹部! ハロウィンパーティーにて >



GC 英語コース

“教職課程”

のお悩み解決!

GC 学部英語コースでは、2017年度より教職課程が開設されました。そこで新しい課程に教諭を目指して挑む1回生より質問を受けつけ、現在、兵庫県立姫路別所高等学校に勤務されている長元遥香先生にお答えいただきました。教職課程に興味・関心のある学生は、ぜひ参考にしてください。

山本 舞美

兵庫県立姫路別所高等学校
長元 遥香 先生

ご自身のプロフィール

2012年度 同志社大学文学部英文学科卒業
大学時代は Wild Cats (バスケットボールサークル) に所属していました。
現在は兵庫県の公立高等学校で教諭をしています。

教職を目指されたきっかけ、理由は何ですか

母親が教員ということで、漠然と「自分も教員になるのかな」と思っていました。大学入学の時点では、一般企業への就職も視野に入りたいと考えており、いわゆる「とりあえず教職」といった状態だったかもしれません。しかし、英語教師は一般企業よりも英語を使う機会が多いこと、そして介護等体験で私は子どもが好きだということに気づき、3回生の秋学期に教職に就きたいと思うようになりました。

1 一番辛かった、大変だった事は何ですか

2回生の春学期で40単位取ったことです。私は、2回生の秋学期に英文学科のセメスタープログラムを利用して留学しました。しかし、3・4回生で介護等体験や教育実習に行くためには、2回生の時点で取っておかなければいけない科目もあります。留学先で取得した単位を教職科目に互換することはできないため、春学期はひたすら授業を受けていました。周りの友達は一番遊んでいる時期です、今思えば少し羨ましかったと思います。

1 回生のうちにやっておくべきことがあれば教えて下さい

計画的に単位を取っておくことです。1回生から履修できる科目もあれば、2回生以降でないと履修できない科目もあると思います。履修できる科目はできるだけ早く取るようにしていました。教員免許取得の履修要綱を熟読して、「うっかり教育実習に行けない!」なんてことが起きないように、計画的に時間割を組んでください。また、教職科目の授業内容に関して、「1回生の時の授業、もっと真面目に受けておけば良かった……」と採用試験の時に反省したので、皆さんにはそうならないようにして欲しいです。

教育実習を3回生のうちに行うのは過酷だと思いますか

私の周りの同志社生で、3回生で教育実習に行かせてもらっていた人はいません。教育実習に行くためには、教育実習履修条件科目の単位を決められた時期までに修得しておく必要がありますが、2回生での留学が必修ということであれば、かなり大変だろうと思います。詳しいことは、免許資格課程センターでお尋ねいただいた方が良いと思います。

先生になる以外に教員免許を持っていることにメリットはありますか

私自身、教員以外の仕事を経験していないので、実際どんなメリットがあるのかはわかりません。社会人の多忙さを考えると、大学生の時間に余裕があるうちに教員免許を取得しておくこと、もし教員に転職したくなっ

た時に助かるかもしれません。ただ、免許を取得するためには、忙しい学校現場の先生方の手をとめて教育実習をさせていただく必要があります。その意味では、本当に免許が必要かどうかをよく考えるべきだと思います。

先生になられてからのやりがいやなってよかったことは何ですか

生徒たちの成長に気付いた時や生徒たちに想いが通じた時、この仕事に就いて良かったなと感じます。「生徒は教師の鏡」という言葉がありますが、まさにそのとおりです。私たちが一生懸命に関わった分だけ、生徒たちも頑張ってくれるので、やりがいのある仕事だなと日々感じています。

教職を学習する、目指す GC 生にメッセージをお願いします!

実は私自身、留学が必修という魅力的な GC 学部を受験しなかったのですが、当時教員免許が取得できなかったために断念しています。現在、留学と教員免許取得を両立できる環境にある皆さんを、大変羨ましく思います。大学生は自由な時間がたくさんあり、その時間の使い方次第で人生が大きく変わるように思います。アルバイトや部活動、サークルなどで忙しいかもしれませんが、将来の自分のための時間も大切にしてください。いつか GC 学部卒の先生と出会うことを楽しみにしています。



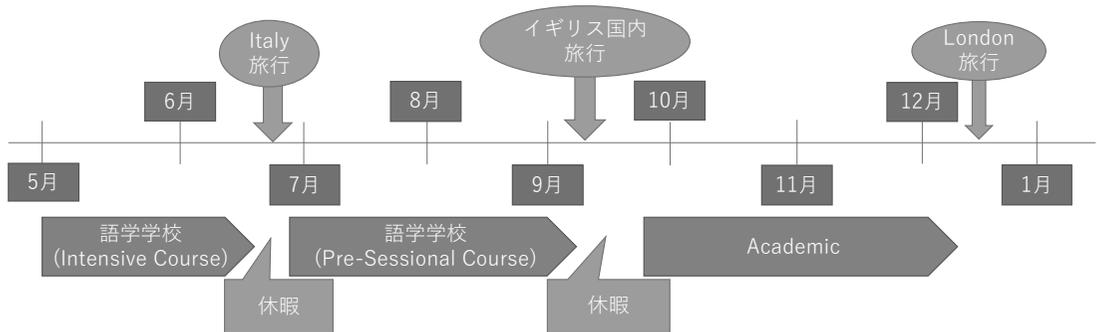
GCの醍醐味 Study Abroad 大特集

お待たせいたしました！みなさんがお楽しみにしていることでしょう、GCの醍醐味である留学の大特集です！今回は全留学先を取り上げ、より各留学先へのイメージを持てるよう工夫しました。

留学経験者たちが大学の授業についてはもちろんのこと、留学の楽しみ方なども教えてください。ぜひ、留学先選びの手助け、留学への興味・関心を持つきっかけにいただければと思います。

山本 舞美

Sussex



1. 恋しくなったもの BEST3

1. 生卵

イギリスでは、衛生上の問題から生卵を食べるのはリスクがあって食べられません。食べられなくなってから初めて、自分は卵が結構好きなんだなと気づきました (笑)。

2. 軟水

ヨーロッパの水は日本と違い基本的に硬水なので、髪を洗ったりするとバッキバキになりやすいです……。

3. 日本のチョコレート

イギリスで売っているチョコレートはどれも甘すぎるので、日本のチョコレートがすごく恋しくなりました。

2. 留学を英単語3つで表す！

Intriguing (好奇心をかき立てるような)

Encounter (出会い)

Independent (自主的な)

3. 現地大学の授業について

“Language and nations” という授業は週に2回行われます。そのうち1つはレクチャー形式で、もう1つはセミナー形式です。セミナーでは、資料をもとにクラス全体でディスカッションを行います。授業の内容としては、言語とジェンダーや言語と方言など、言語と○○というテーマを取り扱い、単なる外国語の知識ではなく、様々な角度から「言葉」を考えていくことができます。

4. 留学の感想と今後に向けて

今回の留学は、たくさんの新しい人やモノに出会うことができた、「出会い」の留学になりました。ホストマザーや留学先で出会った友達はもちろんのこと、それまで経験したことのなかった食べ物や習慣など、すべてが私にとっては新しかったのです。それらと触れ合うことで、以前よりも、

様々な考え方やモノを受け入れることができるようになりました。今後も新しいモノを常に受け入れ、出会いを大切にする生活を送っていきたいです。



<ホストマザーの誕生日>

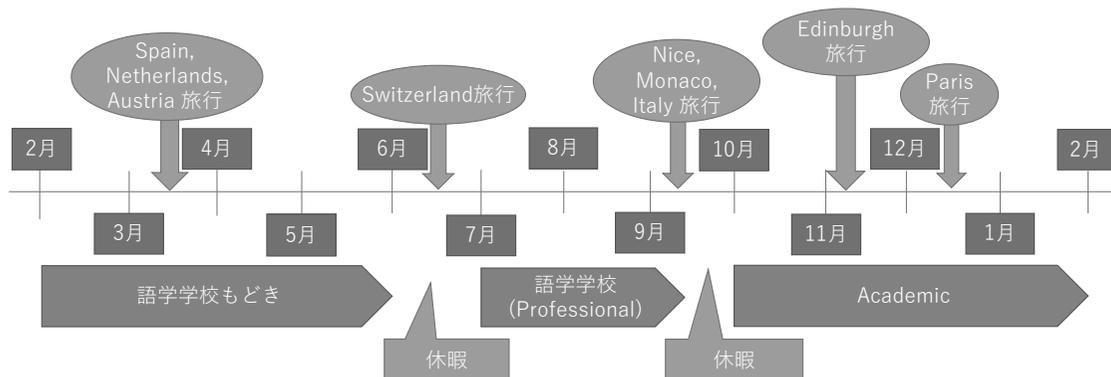


<日本では会うことがなかった仲間たち>



<授業終わりにみんなでピクニック>

Southampton



1. 私の旅行先 BEST3

1. ニース

ニースはフランスの南部にあり、ヨーロッパ圏の人にはリゾートして有名です。ニースでは、青い海を眺めながらビーチでゆっくりしたり、ジェラートを食べたりと、のんびりした時間を過ごしました。ニースで食べた、ジェラートの味は今でも忘れられません!!

観光地としては日本ではそこまで有名ではないので、いい意味で観光地化されていないため、ローカルな雰囲気もあり、とても楽しかったです。

2. スイス

スイスでは、雄大な自然にただただ圧倒されました。電車に乗り、氷河や湖を見ながら、リアル「世界の車窓から」の気分が味わえました。

3. パリ

さすが、「おしゃれの街」ということもあり、街全体の雰囲気がとても良かったです。また、パリ市内の中にもいくつも美術館や大聖堂がありました。私が旅行した際は、お正月期間のソルドと呼ばれるセールをしていて、有名ブランドの商品が80% オフになっていたりして、ショッピングも楽しめました。

2. 留学を英単語3つで表す!

Tough (辛さ)

Travel (旅行)

Awesome (最高)

3. 現地大学の授業について

私が現地で受けた映画学の授業は、ハリウッド時代の映画を扱いました。授業では1週間に1つ映画を選び、その映画での、カメラの使い方、衣装や装飾品の映画に対する効果、編集方法などを考察します。講義では、大きな部屋で教授が話をし、セミナーと呼ばれる授業では、小規模な教室で学生がディスカッションをする、といった授業スタイルでした。正直、映画学の基礎が何

もなかった私は、ついていくのに必死でしたが、イギリスでしかできない映画学の授業はとても興味深く、この授業のおかげで映画の見方が少し変わった気がします。

4. 留学の感想と今後に向けて

留学は試行錯誤の毎日でした。初めての留学、慣れないイギリス英語、さまざまな思いがけない壁があり、一つひとつを徐々に乗り越える、という生活でした。しかし、その中でも、気にかけてくれる優しい友達、一緒に旅行した友達、誕生日パーティーをしてくれた友達、思い返してみると、とても周りに恵まれた1年でした。試行錯誤の中で、1年やりきった、という経験が今の自分の自信につながっています。留学中には、「日本人としての私」に気づき、将来は「日本人の私」だからできる、日本の良さを世界に発信できるような人になりたいと思っています。



<エジンバラからの景色>

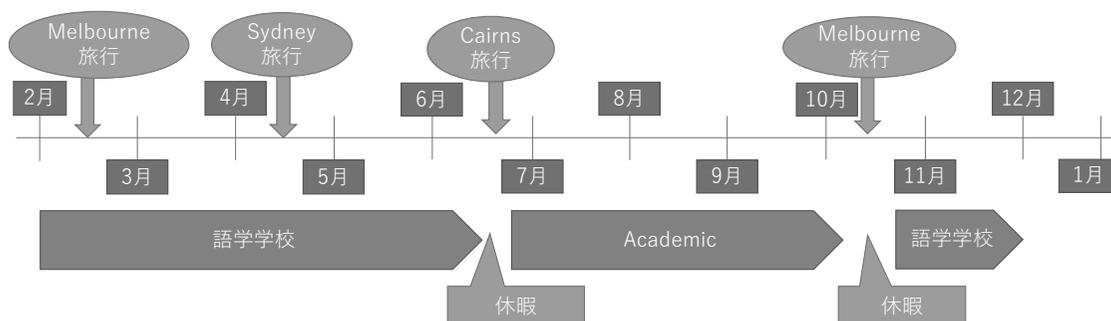


<フラットメイトとのハロウィンパーティー>



<中国人の友人との1コマ>

Deakin



1. 私の成長 BEST3

1. 意見を言う力

もともと頑固で自分の意思が強いタイプだったのですが、あまりわざわざ意見として言うほどではありませんでした。しかし、クラスのディスカッションでも積極的に話せるようになりました。これは英語に限らず、日本語でも同じです。

2. コミュニケーション力

1と少し似た部分があるかもしれませんが、初対面の人とも物おじせずに話せるようになったのは、留学中にどのように話せば相手にうまく伝わるのか、相手はきっとこういことを言いたいのかな、などとコミュニケーションに苦戦しているうちに、自分のコミュニケーション力が伸ばされた気がします。

3. 聞く力、理解力

リスニングが得意ではなかったのですが、相手が言いたいことを想像し、理解する力がついたと感じています。また、多文化に対する理解も増し、より外国人観光客に対して、寛大になれたと思います。

2. 留学を英単語3つで表す！

Study (勉強)

Hangout (遊び)

Repeat (繰り返し)

3. 現地大学の授業について

私は4つのアカデミッククラスを受けました。オーストラリアの歴史、オーストラリアの外交、世界の宗教、中国語中級です。Deakin Universityでは、4種類の授業を2コマずつ、講義型とディスカッション型の授業がそれぞれ50分ずつ行われます。各クラス、講義は、クラスチェアマンが行います。ディスカッション型のクラスの先生が担任となり、エッセイの採点や、テストの採点をし、質問を受け付けてくれます。授業に困ったときなどは、学生向けに昨年クラスをパスした

学生が中心となり、学生をサポートしてくれる PASS という制度が利用できます。

4. 留学の感想と今後に向けて

Deakin University は都会に近く、交通の便も整っていたので、とても便利です。メルボルンは観光名所がたくさんあり、カフェとアートの街として有名です。放課後のカフェ巡り、市内観光と、充実した毎日を送れました。また学習面では、無料で利用できる大きな州立図書館や、博物館もあり、勉強の環境が整っていました。

何もなくても周りにあふれる英語、異文化交流、そしてたくさんの友達。理解できた時の喜び。学校にいるときもシティで友達と遊んでいても、ホストファミリーとリラックスしているときでさえ、学ぶチャンスはあちこちにありました。成功も失敗もすべてが勉強で、勉強と遊びの繰り返し、まさにそんな留学生活でした。今後はメルボルンでの経験を活かし、世界に大きな影響を与えるような人になりたいです。



< ホストマザーとホストシスターと遊園地の前で >

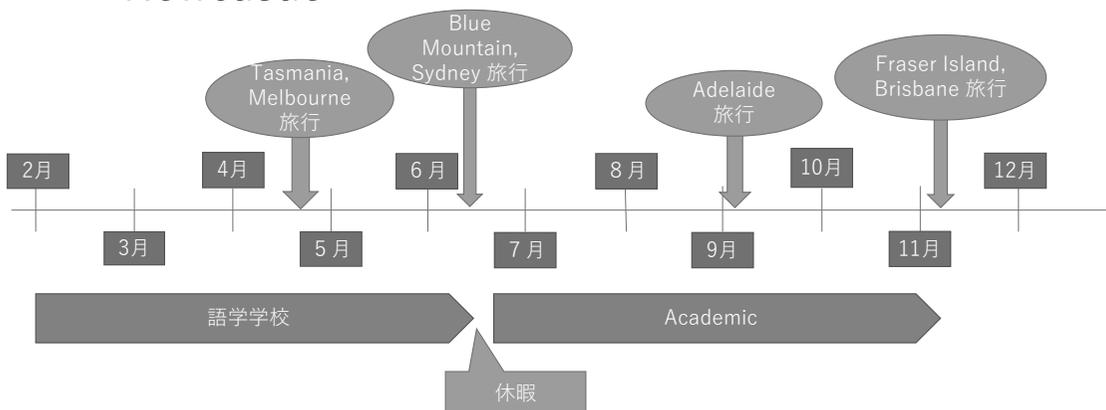


< グレートオーシャンロードの最終地点 >



< ディーキンオブジェ >

Newcastle



1. 私の楽しかったこと BEST3

1. ホストマザーとの料理

タイ系オーストラリア人のマザーは、料理好きで、毎日手の込んだタイ料理やオーストラリア料理の作り方を教えてくれました。

2. アメリカ人友人との日々

私の英語向上を手助けしてくれたり、時にはクラブで一緒に騒いだり、最後の思い出作りにはブルーマウンテン旅行に行きました。

3. 海辺散歩

ニューカッスルには、たくさんのビーチがあり、それぞれが舗装された小道でつながっています。どこを歩いても壮大で美しい海を一望でき、日本では味わえないひと時を過ごせます。

2. 留学を英単語3つで表す！

Thankfulness (感謝)

Growth (成長)

Change (変化)

3. 現地大学の授業について

The University of Newcastle では単位互換の関係上、最大4科目取ることができます。私はそれぞれの科目を抜かりなく学習したいと思い、あえて3科目だけ取りました。とりわけ“Introduction to Public Relations”という科目は、オーストラリアでは主流ですが、日本では見かけないので、新鮮で興味深い科目です。この授業では、現代のソーシャルメディアの利便性や危険性、その他メディアの正しい使い方を学んだ上で、架空の企業をより良いものに発展させられるようプランを練り、提案します。物事を様々な視点から考える力がつき、非常に勉強になるのでおすすめです。

4. 留学の感想と今後に向けて

この留学で学んだのは、第一に自分自身で行動する大切さです。もちろん家族、友人やホストファミリーの支えがあることは確かですが、英語を話す機会を作るのは自分自身にかかっています。私は何にも臆せず、巡ってきたチャンスをすべてつかむぞということを中心に、悔いのない「語学」留学を達成できたと思います。また、GC 学部が掲げるコミュニケーターとしての私も少なからず発揮できたのではないのでしょうか。特に文化交流の面で、日本についての正しい知識を伝えるとともに、相手の文化を尊重し学ぶことができました。オーストラリアでの貴重な経験を踏まえ、吸収した知識とコミュニケーターとしての私を存分に活かせる自分像を描き、将来につなげられればと思います。



<寮の仮装パーティー>

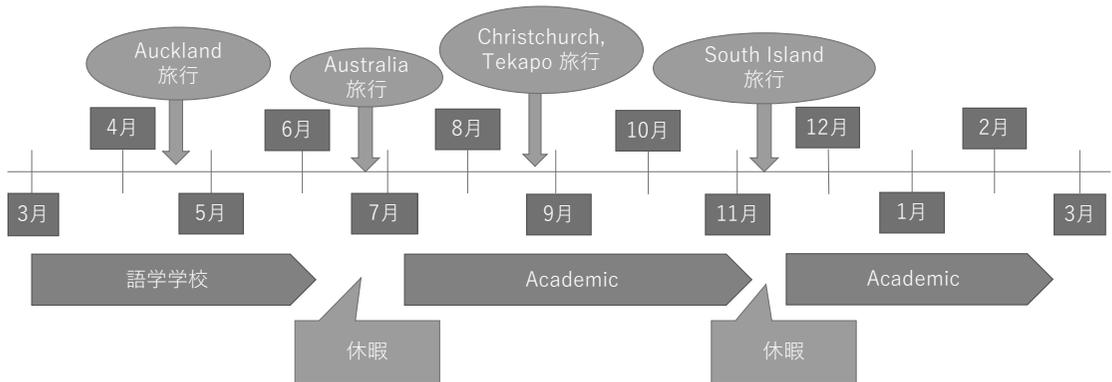


<到着後すぐに遊びに行った海>



<アメリカ人友人との最後のお別れ>

Wellington



1. やってよかったこと BEST3

1. 旅行

いろいろな人といろいろなところへ多少無理してでも行ってみたいべき!

2. インターン

出会いの幅が広がる

3. 映画を見る

成長を感じられるし、いい話題づくりになる

2. 留学を英単語3つで表す!

Exciting (ドキドキ)

Fun (わくわく)

Sweet as (いいね!!)

3. 現地大学の授業について

アカデミックの授業は語学学校での授業と違い、「英語を学ぶ」ことから「英語で学ぶ」ことになり、レベルが一気に上がりました。ただ、心配していたほどではないように思いました。授業自体は、週にある授業回数に反比例し授業時間が決まっていました。私のとっていた教育学では授業が週2回、10分休憩込みの2時間のものでした。それに加え週1回のチュートリアルと呼ばれる10~15名ほどで行われる授業のフォローアップ、さらに理解を深められるようディスカッション等をするクラスがありました。気になることがあれば授業中にも質問はして大丈夫ですが、大勢の前で話しにくいと感じるのならチュートリアルはもってこいの場所です。クラスメイトに聞くもよし、もちろんチューターに質問してもすごく丁寧に説明して下さるのでおすすめです。課題や膨大な量のリーディングについても相談に乗ってくださいます。恥ずかしがらず遠慮せず、どんどん積極的に参加することがアカデミックを楽しむカギと感じました。

4. 留学の感想と今後に向けて

12か月間全力で楽しんだと胸を張って言える留学生活でした。この間強く感じたことは、自分次第で何でもできるということ。異国の地で初めて会う人々と旅行に行くのもよし、もちろんいいかないというのも一つの選択です。ただせっかくの機会、いろんな人に会って新しいことに触れて、少し貪欲なくらいに積極的になってみるのもいいのではないのでしょうか。仲良くなったオーナーに頼み込んで、機会をいただいたインターン、友人との弾丸登山旅行、なんでも気になったらやってみるものだなと思いました（笑）。



<クリスマス>

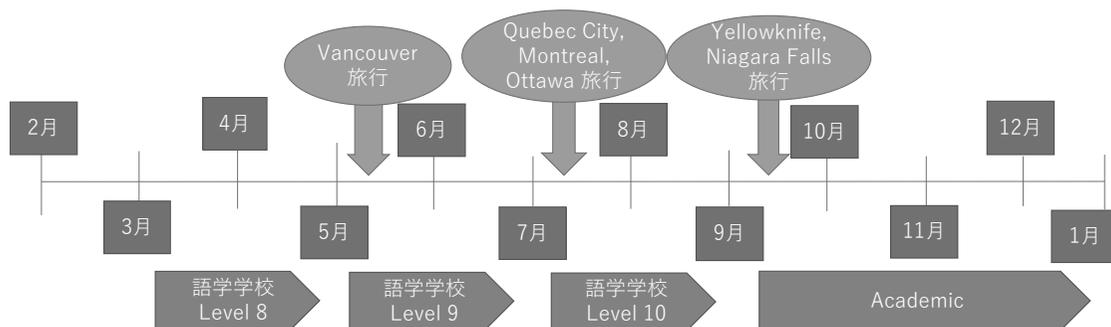


<ピザパーティー>



<ホリデーハウス>

Guelph



1. 私のゲルフ大学でのお気に入りの場所 BEST3

1. McLaughlin Library

地下1階から地上6階まである巨大図書館では、私語禁止の学習スペースや、グループワークスペースがあり、深夜遅くまで多くの大学生が使用しています。

2. UC (University Centre)

カフェテリア (日本でいう食堂) で、週末には催し物やボランティア活動、ワークショップ等が行われており、日々学生や学外の人達でにぎわっている憩いの場です。

3. Johnston Green

夏には多くの学生がこの芝生でスポーツや日光浴、読書を楽しんでいます。

2. 留学を英単語3つで表す!

Struggling (もがく・あがく・奮闘する)

Unexpected (予想外の)

Adventure (冒険)

3. 現地大学の授業について

ここでは、私が受講した“The Language of Media”というメディアに関する授業を紹介します。まず、なんといっても教授がとてつもなく個性的でした (笑)。例えば、初回授業の日、教授はまず私たちに校庭の芝生に出るように言いました。そこで学生と教授は手を取り合って一つの大きな円を作り、数分間芝生の上で瞑想しました (笑)。

授業内容については、メディアの基礎知識に加え、映画やテレビ等で目にするシーンの1コマに込められた制作者の意図やメッセージの分析や、pop culture (大衆文化) を分析して、そのもつ記号論的意味について考察しました。また、メディアと巨大企業との癒着の問題にも触れ、自身のメディア使用が生活にどのように影響しているかについて考察を深めました。(例えば Facebook の使用とプライバシーの問題など)。Role playing では、オンタリオ州で実際に起こった、採石問題について、学生一人ひとりが政府関係、採石地の住民、採石を行う企業、環境問題

に取り組む NGO などの役割を与えられ、各々の立場から問題解決に取り組みました。日本の授業と違って、積極的に発言を求められたことや、授業の連絡に Facebook のグループ機能を使用したことには驚きました。授業は週1回で180分でした。

4. 留学の感想と今後に向けて

留学というと楽しい、華やかといった印象がありましたが、実際は様々な苦勞、ストレスやプレッシャーがあり、試行錯誤の繰り返しでした。その中で、語学力の向上に加え、日々の予想外の出来事や負荷にどのように対処するかを学べたことで、人間的に大きく成長できたと思います。今後は、留学を経て身に付けた英語で何を伝えたいのか、英語をどのように使いたいのかということ、自身の将来のキャリアとも照らし合わせながら考えていきたいです。



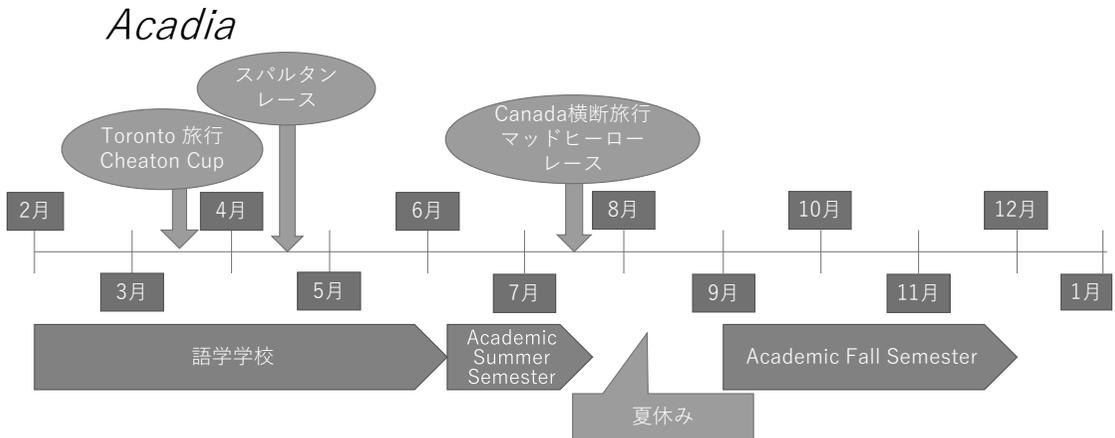
<ゲルフの街並み>



< Johnson Green (大学内の芝生) >



<イエローナイフでのオーロラ鑑賞>



1. 私の好きなカナダ料理 BEST3

1. プーティン

フライドポテトにチーズとグレイビーソースをかけたファストフード

2. ビーバーテイル

ビーバーの尻尾のような形のスイーツ

3. Tim Hortons のドーナツ

Tim Hortons はカナダのコーヒーショップチェーン

2. 留学を英単語3つで表す！

Run (走る)

Overcome (乗り越える)

Obstacles (障害物)

3. 現地大学の授業について

アカデミックの授業の中で、最も印象に残っているのは“Political science (政治学)”です。この授業は週2回あり、政治の起源や歴史、概念をディスカッションやグループワークを通じて学ぶというものです。その中でも印象に残っているのが、グループごとに州が割り当てられ、実際に自分たちが州知事や大臣を演じ、他の州政府と交渉するというシミュレーションゲームでした。メンバーの発言を理解できないことが多々あり、泣きたくなるくらいしんどかったですが、英語力は向上し、とてもいい授業でした。

4. 留学の感想と今後に向けて

私のカナダでの留学は、様々なことに挑戦できた10か月間だったと思います。突然ホストブラザーにNYに連れて行かれ、参加した世界一過酷な障害物レースと言われるスパルタンレースに始まり、カナダ横断、裸体主義体験など、本当に多くのことにチャレンジし、多くのことを学んだ1年でした。日本に帰国してからは、安定しすぎた毎日を送りがちですが、これからも挑戦することを忘れずに、刺激のある日々を送っていきます。



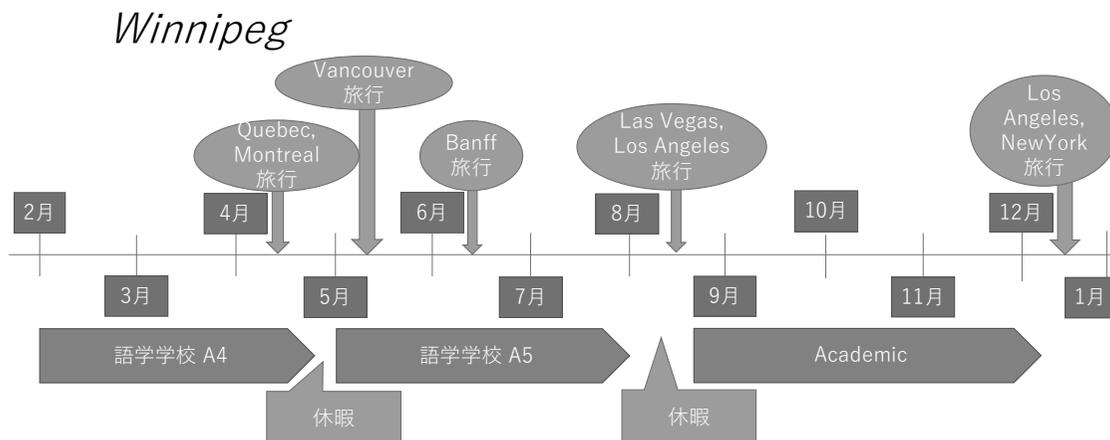
〈カナダ横断中に知り合ったチリ人とトロント散策〉



〈スパルタンレース完走！ in NY〉



〈サルファーマウンテンからの絶景！〉



1. 私の旅行先 BEST3

1. バンフ

絵の具で描いたかのような真っ青やエメラルドグリーンの色をした湖が本当にきれい！

2. バンクーバー

ザ都会な感じ。日本や様々なアジアの国々のお店が並んでいて、多国籍の人々と触れ合えます。

3. グランドキャニオン

壮大な自然に圧倒。空気がとてもきれいです！

2. 留学を英単語3つで表す！

Meeting (出会い)

Learning (学び)

Growing (成長)

3. 現地大学の授業について

私はアカデミックでは“Anthropology (人類学)”, “Human Geography (人類地理学)”, “Micro Economics (ミクロ経済学)” の3コースを受講していました。1コース週2コマでしたので、週6コマ受講していました。一番印象深いのは“Anthropology”です。このクラスでは人類の言語や社会的習慣などについて勉強します。校内で人間観察をしたり、グループで課題を仕上げたりと、グループワークが多く、現地学生との交流が多いのも特徴です。リーディングの予習や課題は難しいものもありましたが、自分が一番成長できた授業でした。

4. 留学の感想と今後に向けて

私はもともと英語が得意ではなく、自信がありませんでした。留学中は自分のふがいなさに落ち込み、逃げ出したくなる時もありましたが、たくさんの人に出会い、支えられ、自分なりに成長することができました。英語のスキルはもちろん、異文化へのアプローチや人への接し方もよ

り高まったと感じます。ウィニペグは英語を学び、たくさん遊び、その他の活動もバランス良くできる場所です。留学前の皆さんは、不安もたくさんあると思います。留学中は全力で勉強し、遊び、悔いのないように楽しんでください。



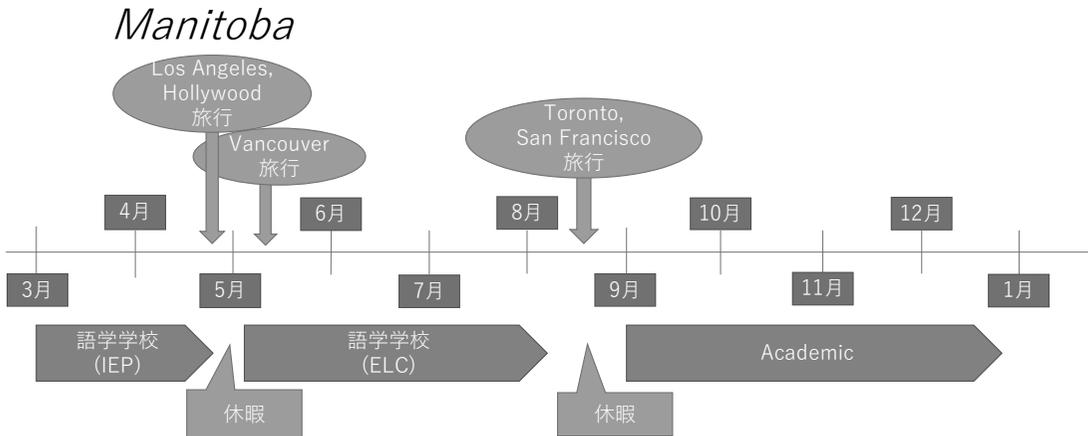
<語学学校のクラスメイトと一緒に>



<マイナス 20 度の中でそりすべり>



<クリスマスパーティー>



1. 私の旅行先 BEST3

1. バンクーバー

都会でありながらもたくさんの自然を楽しむことができます。観光にショッピング、おいしいお店もたくさんあり、私も2回旅行に行きました。

2. ケベック

ヨーロッパ風の街並みがとても魅力的なところです。フランス語話者が多く、それも新鮮で楽しかったです。

3. トロント

船に乗って海の上から見たトロントの夜景は絶景でした。

2. 留学を英単語3つで表す！

Adventure (冒険)

Challenge (挑戦)

Excitement (興奮)

3. 現地大学の授業について

私が受けた“Environmental Science”という授業は週2回で、受講者の数は100人以上と、毎回席を確保するのが大変です。内容としては、地球温暖化や水質汚染、食物連鎖など、中学や高校で学んだ生物の基礎的なことやその発展的なものです。知っている内容も多く、語彙以外での難しさはそこまで多くはありません。教授がたまにジョークを混ぜながら話すのでとても面白い授業です。

4. 留学の感想と今後に向けて

最初は University of Manitoba ではない大学を希望しており、カナダ自体最初は行きたいという気持ちは強くなかったのですが、マニトバで過ごした1年間は私にとってかけがえのないものになりました。英語の成長だけでなく、自分自身の成長、また、新しい発見、出会いといった、と

ても濃い1年でした。これからは、カナダで過ごした経験を自信に変え、何事にも積極的に挑戦していきたいです。



<放課後にクラスメートとランチ>

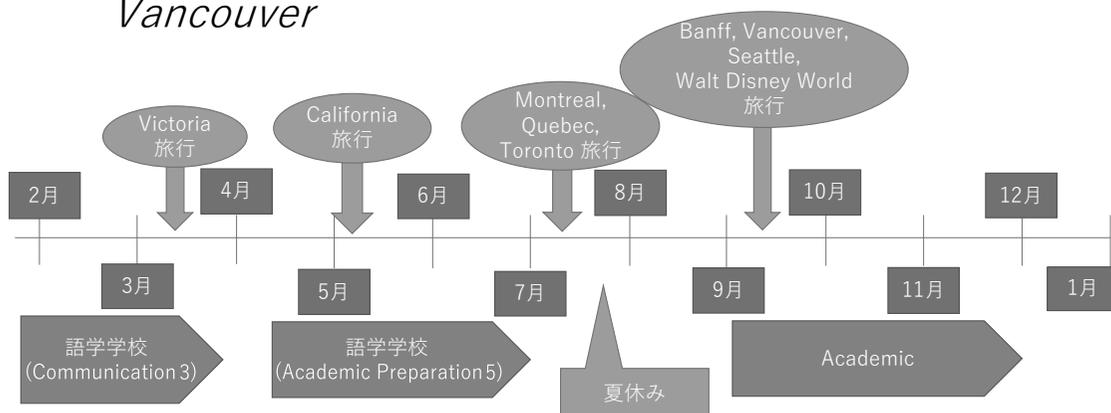


< GC の友達とトロント旅行 >



<クリスマスของサンタパレード>

Vancouver



1. 私の旅行先 BEST3

1. バンフ

国立公園で自然を堪能する。ボウ川やペトロ湖など絵に描いたようなきれいな景色が楽しめます。国立公園ならではの動物に会えるかも！

2. ケベック

Upper town と Lower town があり街並みがとても美しいです。メープルシロップのお店や French Canadian 料理が楽しめるレストランがオススメ！

3. ヴィクトリア

Butchart Garden では四季折々の花を楽しむことができます。冬はイルミネーションやアイススケート場があります。花を眺めながらアフタヌーンティーをして過ごすのもいいですよ。

2. 留学を英単語3つで表す！

Nature (大自然)

Active (活動的、積極的)

Fruitful (充実)

3. 現地大学の授業について

“Leadership in Tourism (Academic)” は学生が主体となって行う授業で、2時間授業が週に2回あります。観光学に関するリーダーシップについての教科書を扱い、全員が教科書の定められたチャプターを読み、授業担当者が授業を行います。屋外でのアクティビティーや文化について理解する内容もあります。

4. 留学の感想と今後に向けて

カナダでの10か月は夢のような時間でした。言葉や文化の壁を目の当たりにしてうまくいかないとときもありましたが、ホストファミリーをはじめとする現地の人々と交流をしていくことで新

たな発見や学びができ、有意義な留学生活となりました。ボランティア活動や語学学校の日本人留学生大使、大学のダンスチームのオーディションに合格した経験などさまざまな挑戦により自分自身大きく成長することができたと思います。何より家族や友達、自分を支えてくれている人の大切さを改めて感じました。今後もいろいろなことに挑戦し、この経験を活かしてより一層成長していきたいと思います。



< VIU ダンスチーム >

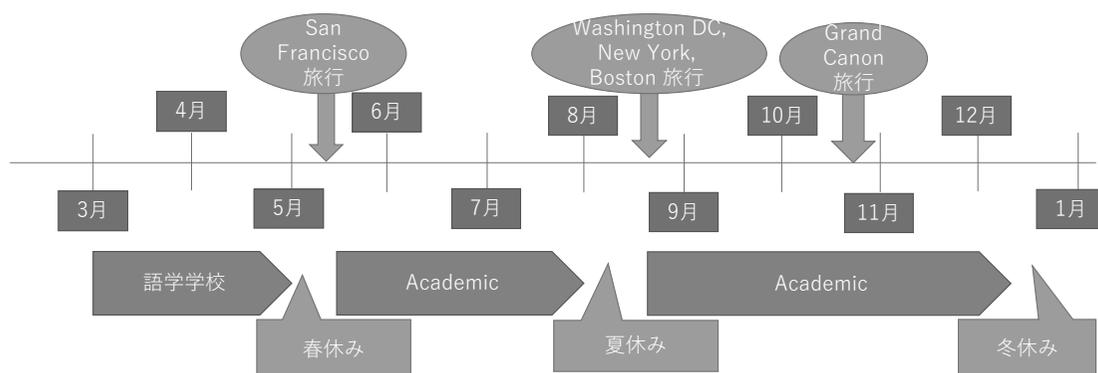


< ホストファミリーとピアノ >



< ラジオ収録 >

Utah



1. 私の思い出 BEST3

1. 友人との毎日のたわいもない会話
2. 外国人女性とお食事
3. キャンプやスノーなどのアウトドアスポーツ

2. 留学を英単語3つで表す！

Hard (つらい)

Fun (楽しい)

Unforgettable (忘れられない)

3. 現地大学の授業について

私が受けた“Modern Family”という授業は、週2回の80分授業です。良い家族、恋人（人間）関係の築き方を中心に学習します。アメリカにいたということもあり、LGBTなどの少数グループの苦悩やそういった人たちとの接し方についても学ぶことができます。

4. 留学の感想と今後に向けて

新しい環境で生活することは良くも悪くも刺激的でした。その中で最も痛感したことは待っていたら何も始まらないということです。新しい友人を作ることや実際にその人たちと遊ぶことも、自分から行動しないと何も起こらないのだと感じました。留学期間を通し「自発性」を高めることができたため、今後どこに行ったとしても自分からどんどんアクションを起こすことを心がけていきたいです！



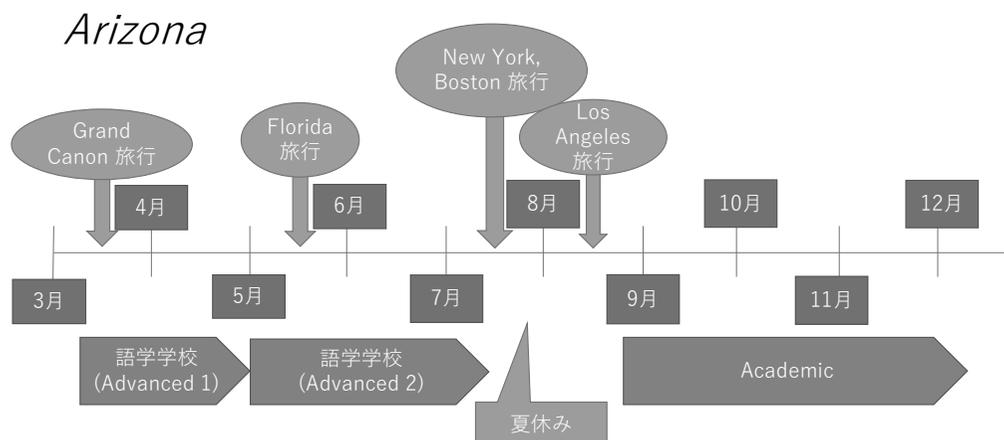
<史上最高に楽しい授業>



<海外初パーティー>



<最もハードなロードトリップ>



1. 私の思い出 BEST3

1. 寮のルームメイトたちとの共同生活
2. LA 旅行中に現在でも連絡を取り合うアメリカ人の友人との出会い
3. 中東の友人を通してイスラム文化をそばで体感できたこと

2. 留学を英単語3つで表す！

Unforgettable (忘れられない)
Encounters (たくさんの出会い)
Irreplaceable (かけがえのない)

3. 現地大学の授業について

ここでは“Innovation in society” というクラスを紹介します。

1コマ50分の授業が週3回あり、15人ほどの少人数クラスです。授業内容は、課題として毎時間渡される5~10ページほどのイノベーションについて書かれた資料を読み、授業中にクラス全体でディスカッションする、というもの。授業と並行して、学期を通し4~5人程度のグループに分かれ、キャンパス内で学生が実際に行えるイノベーションを考え、実行するというグループ・プロジェクトもあります。

4. 留学の感想と今後に向けて

たくさんの忘れられない経験、かけがえのない素晴らしい出会いがあり、一度もホームシックにかかることなく充実した10か月を過ごせました。特に寮に移ってからはルームメイトを通し、より深くアメリカの大学生活を体験することができました。留学中に唯一恋しくなったものが日本の食べ物です。日本を離れたことで日本食の素晴らしさを実感できたので、将来は食に関わる仕事に就きたいと考えています。



<語学学校の卒業式>

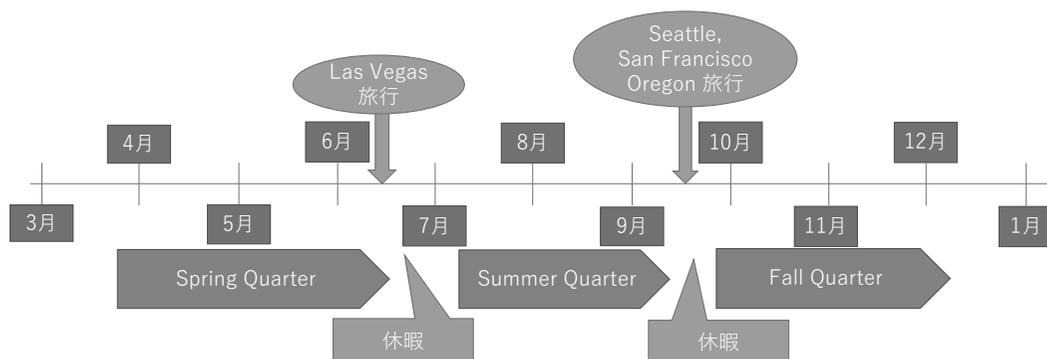


<寮のルームメイトと飲み会>



<旅行先で出会った友人とミシガン湖の前で>

Riverside



1. 私の休暇中または週末にしたこと BEST3

1. 旅行 (日帰りも含む)
2. イベントに行く (Color run, beach front cinema など)
3. 家で映画を見る

2. 留学を英単語3つで表す！

Excitement (興奮)

Fun (楽しさ)

Learning (学び)

3. 現地大学の授業について

私は日本では触れることのない分野の授業をとりたかったので、以前から興味を抱いていたネイティブ・アメリカンについての授業をとりました。80分授業で、週3回のうち1回ディスカッションクラスがあります。ネイティブ・アメリカンの歴史を学ぶだけではなく、彼らの現在直面している問題や、権利など様々な観点からネイティブ・アメリカンを学ぶということを目的にした授業です。

4. 留学の感想と今後に向けて

私はアメリカで過ごした9か月間で様々なことを感じ、学ぶことができました。英語に関しては、しゃべらないといけないという気持ちをもちすぎるのではなく、友達やホストファミリーなどと英語での会話を楽しむことが英語の上達に一番つながると身をもって感じました。さらに留学先の授業では英語を学ぶのではなく、英語で何かを学ぶことに難しさを感じる反面、日本では学ぶ機会がない分野を学ぶことができ新鮮で楽しかったです。さらにホストマザーや友達などの周りの人に助けられることが多く、感謝と周りの人々を大切にするという当たり前のことを再認識することができました。今は海外に対する好奇心がますます強くなり、英語でより多くの人とつながりたいと思うので、機会があれば臆せず何でもチャレンジしていきたいと思います。



<中国の鍋パーティー>

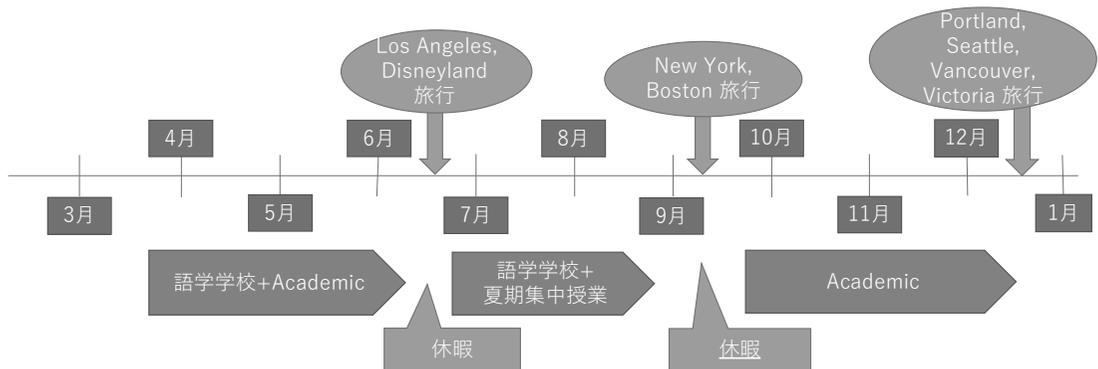


<私の誕生日会>



<お別れ会>

Davis



1. 週末おでかけスポット BEST3

1. サンフランシスコ

行く度に印象が変わる街

2. シックス・フラッグス

この遊園地は、クレイジーな乗り物しかなかったです (笑)

3. アーデンフェアモール

頭上でメリーゴーランドが回るショッピングモール

2. 留学を英単語3つで表す!

Irreplaceable (何にも代え難い)

Invaluable (とても貴重な)

Unforgettable (忘れられない)

3. 現地大学の授業について

“Production Management” というアメリカの劇団運営についての講義を紹介します。元 Stage manager の方が講師で、ブロードウェイから各地域の小劇場まで、アメリカの演劇文化について深く知ることができます。週2日の講義や観劇課題のほか、学期末にはグループで1つの架空公演マネジメントプランを練り、プレゼンを行います。

4. 留学の感想と今後に向けて

全体の感想としては「短かったなあ」の一言に尽きます。最高に充実し、たくさんの経験や出会いや思いが詰まった9か月間でした。そして何より、今まで生きてきた中で一番自分自身と向き合った期間でもありました。自分の中の弱くてもろい部分も、自信を持てる部分も、実は昔から全く変わっていない性質も、少しずつ着実に見えてきました。自分自身を知るといふ経験は、今後自分がどんな道を進むのかを決める確かな指針になったのではないかと思います。



<教室移動は自転車です！>



<シックス・フラッグスの一押し乗り物>



<学校帰り、たそがれ度100%>

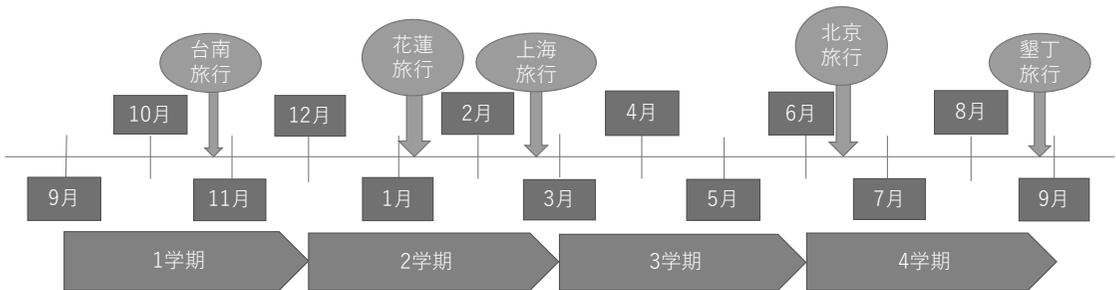
山本 舞美 : University of Montana (アメリカ)

モンタナに関しては、昨年度留学した人はいなかったので、基本情報のみ紹介させていただきます。

モンタナの基本情報

モンタナは、ロッキー山脈麓の町 Missoula の中心的存在で自然豊かな場所です。キャンパスはなんと東京ドーム17個分の広さで、その中での移動はフリーバスや自転車の無料レンタルを利用することもできます。今では、大学と観光を中心とする町ですが、もともとは林業が中心でした。そのため、授業では、環境学、森林学、自然資源学が有名です。同時に、コミュニケーション、ジャーナリズムや英語学でも高い評価を得ています。放課後や休日には、カヤックやフィッシングを楽しみ、ダウンタウンのカフェでゆったり過ごすことができます。小さな町ですが、落ち着いた環境で勉学に励みたい人、自然が好きな人、人との触れ合いを大切にしたい人にぴったりの留学先でしょう。様々な国から留学生が来ているので、異なる国籍の友達もたくさんできると思います。

台湾



1. 私の好きなナイトマーケット BEST3

1. 樂華夜市 (台北)

観光客には特に大きい士林夜市、饒河夜市などが有名ですが、私が一番好きな夜市は「樂華夜市」です。週末には地元の方でにぎわい、観光客の方はあまり見かけません。しかし、食べ物、洋服、ゲームなど幅広くあり、値段も手頃で楽しめます!!

2. 一中夜市 (台中)

台北からバスで約2時間はなれた台中にあります。私が台中を訪れる際には必ずこの夜市に寄りました。台中の夜市は台北の夜市に比べ規模がとても大きくにぎわっています。夜には若者が多く繰り出し、台北の夜市に比べ物価が安いです。

3. 師大夜市 (台北)

師大夜市は大学から一番近い夜市です。師大夜市はこれといって特にありませんが、やはり一番お世話になっていたということもあり思い出が多いです!! この夜市の特徴としては、特に女性の洋服が多く売られていることで、とても安いです。

2. 留学を中国語3つで表す!

- 獲益良多 (たくさんの獲得)
- 美好經驗 (素晴らしい経験)
- 友情可貴 (友達最高)

3. 現地大学の授業について

台湾師範大学の授業の仕組みは3か月1学期制となっており、1学期間、毎日1冊のみの教科書を使って授業が行われます。1年間で合計4学期勉強することになります。

授業の内容は、教科書ごとに内容が異なっており、自分のレベルが上がるごとに授業の選択肢も広がります。ある教科書は政治経済を扱った教科書で、その学期間は主に政治経済を中心として授業を進めます。またある教科書はビジネス中国語を中心としたもので、その学期間はビジネスに関する中国語を主として学びます。

4. 留学の感想と今後に向けて

私たちの同期は、台湾を選んだ学生が3人しかいなかったため最初は不安でしたが、少人数には少人数の良さがあるということに改めて気づきました。3人しかいないので、留学中もし何か起きたら一人ひとりが一生懸命策を考えます。また一人ひとりが独立して、各自の留学生生活を有意義にしようと努力し、自分で行動を起こそうとします。そのような点で、各自がこの留学生活で頑張っていました。

また、台湾留学は毎日がとても新鮮でしたが、中でも学校の校外学習で台湾名物である「パイナップルケーキ」と「小籠包」をクラスメートと一緒に作りに行ったことや友人と家庭料理を一緒に作ったことが思い出に残っています。

留学の良さは、留学によって自分が聞いていた情報と現地の違いが直接経験できることでしょう。自分で見て、触れることによってようやくその場所について理解できると思います。中国語はもちろんのこと、各国の政治に関する情報や国内事情を知ることができました。

私はこの1年間を通して、台湾で活躍される日本人の方をたくさん見てきました。この留学経験をいかし、今後このように活躍できるよう努めたいと思います。



<台南の歴史ある街並み>

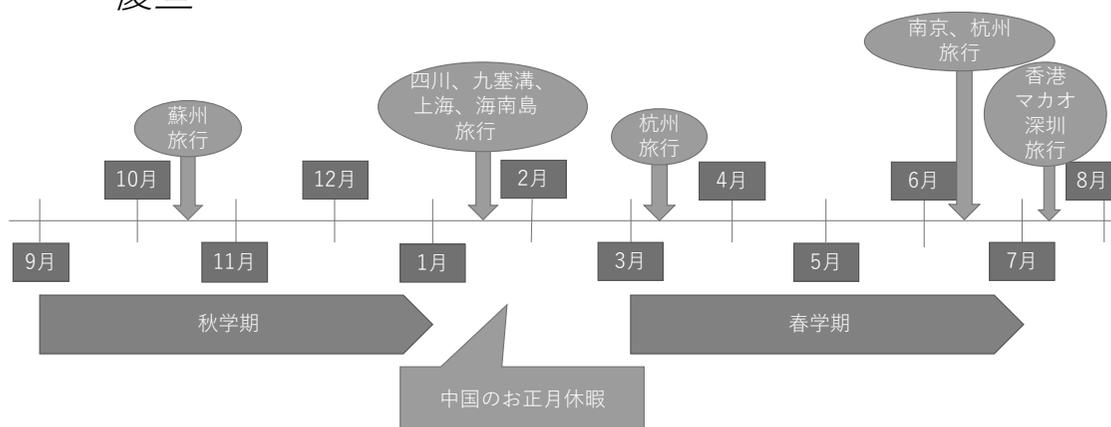


<海で泳いだあとの一杯>



<私の夏>

復旦



1. 私の旅行先 BEST3

1. 九寨溝

ユネスコ世界遺産に登録されている秘境です！

2. 海南島

中国のハワイのようなところ！

3. 香港・マカオ

2つ一緒に行くのがおすすめ！

2. 留学を中国語3つで表す！

交流（交流する）

思考（考える）

挑戦（挑戦する）

3. 現地大学の授業について

「精読」というすべての中国語科目の基礎となる科目を紹介します。日本でいう中国語講読のような授業。週4回、1回の授業が45分×2です。授業内の会話は授業進行、説明、学生による発表、学生同士の会話などです。周りの学生がとても積極的で日本にいる時よりも意見を求められることが多いです。文法は日本人にとっては比較的簡単ですが、その分聴力（聞く力）や口語（話す力）が足りず、難しいと感じる部分が多々ありました。はじめは、先生の指示なども聞き取れないこともよくありましたが、徐々に慣れていき、2～3か月できちんと理解できるようになりました。中国の文化や習慣、日常生活でのエピソードなどを題材にしており、日本人とは少し違う中国人の感覚などをつかむ手がかりとなりました。

4. 留学の感想と今後に向けて

上海留学では、たくさんの人と出会いました。自分とは全く違う文化や価値観、考え方などに触れ、多くのことに挑戦し、物事を今までよりも客観的に大きな視点で考えられるようになりま

した。さらに、中国の方々と接し、中国人の温かさを肌で感じたりする中で、実際の中国というものにも触れることができました。この留学は語学力の成長はもちろんですが、一人間としての価値観や自分の人生を再構築するきっかけとなりました。今後は留学中に会った皆さんに胸を張って再会できるように頑張っていきたいと思います。



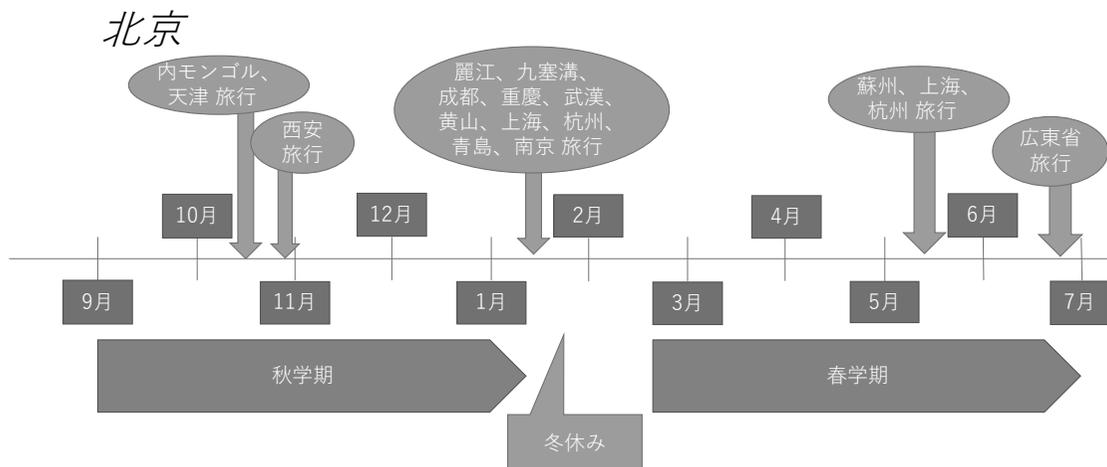
<上海日中友好会>



<世界中から来たクラスメイト>



<中国のハワイ、海南島>



1. 私の旅行先 BEST3

1. 雲南省 麗江

自然が素晴らしいです。

2. 広東省 惠州

双月湾、食べ物が素晴らしいです。

3. 重慶

辛い物挑戦が面白いです。

2. 留学を中国語3つで表す！

開闊眼界（視野を広くする）

消除偏見（偏見がなくなる）

相逢（出会い）

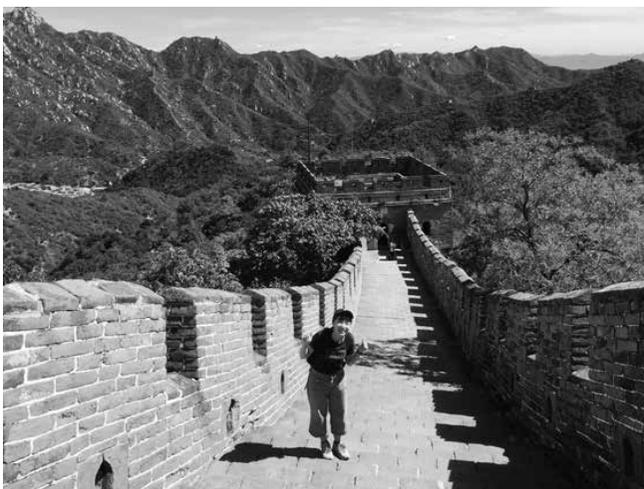
3. 現地大学の授業について

「漢語」（主にリーディングとライティング）が週に100分×3コマ、「口語」（スピーキング）が週に100分×3コマ、選択授業（ビジネス中国語や文法、作文などから2科目まで選択可能）が100分×2コマがあります。「漢語」、「口語」は決められたレベルのクラスで行われ、また選択授業は初級、中級、高級レベルに分かれて行われます。教科書は中国語と同時に中国の文化や伝統が学べる内容になっているので、国際色豊かなクラスで国による違いを話し合ったりします。

4. 留学の感想と今後に向けて

高校3年生のときに、ささいなきっかけから選んだこの学部。でも本当にこの学部にして良かったと言い切れるくらいに北京での留学は私の人生において価値のあるものになりました。同じ中国という国に興味のある様々な国から来た学生に囲まれて、中国人の温かさに触れ、私の中での中国に対する考え方は大きく変わり、偏見もなくなりました。世の中の多くの学生が留学に行きたいと願う中、私は幸運にも中国留学の機会を持たせてもらいました。その貴重な期間で学んだ

こと、気付いたことを自分の中に収めるだけでなく、周りの人たちともシェアし、そこからまた何かを発見できるような人間になりたいと思います。



〈万里の長城〉



2017年度卒業研究テーマ

—英語コース—

Advanced Seminar2 ① (担当 松木啓子)

- | | |
|------|---|
| 千原葵子 | Popularity of Tokyo Disney Resort and Japanese Anthropology |
| 遠藤祐子 | Performed Boom of <i>Taiga</i> Drama Tourism in Hamamatsu |
| 藤田真奈 | Ideal Japanese Tourism in the Future: A Case of Akakura Onsen |
| 彦惣玲奈 | Dreamton Village: The World of Nonordinariness |
| 池田彩華 | Souvenir Purchases: The Difference between Japanese and Western Tourists |
| 丸木菜摘 | Values of Ecotourism: Achievement in the Field of <i>Satoyama</i> Tourism |
| 道越文香 | Sustainable Tourism for Kyoto |
| 大橋仁美 | Authenticity of Kyoto Tourism |
| 大見昌輝 | The Relationship between Contents Tourism and Authenticity: What Tourists Truly Expect to Achieve |
| 立川亜弥 | Little Korea in Osaka: Is Tsuruhashi Shopping Street a Tourist Spot? |
| 綿引円香 | The Nara Gaze: The Representation of Destination Image in Guidebooks |
| 山田明子 | Tourism and Revitalization in Toshoku Area |
| 岡本聡太 | The Influence of Airbnb on Local Societies: A Case of Osaka City |
| 島田雄次 | Ethnography of Politeness Communication in Job-hunting Situation |

Advanced Seminar2 ② (担当 玉井史絵)

- | | |
|-------|---|
| 荒木麻里 | Lincoln's Search for His Identity in Michael Bay's <i>The Island</i> |
| 飯田理子 | The Relationship between Violence and Justice in Eiichiro Oda's <i>One Piece</i> |
| 稲村友花 | The Harmonious Relationship between Religion and Science in Jiro Nitta's <i>Mt. Tsurugi</i> |
| 亀谷晋平 | The Representation of Communication in Makoto Shinkai's <i>Your Name</i> |
| 金本成葉 | The Representation of Sacrifice in Ichiro Okochi's <i>Code Geass</i> |
| 佐々木瑠也 | Nostalgia and the Representation of the Past: Looking Back at the Past in Robert Zemeckis's <i>Back to the Future</i> |
| 寺田泰平 | Is <i>Konjo-ron</i> Out of Date?: The Representation of <i>Konjo</i> in <i>Kyojin no Hoshi</i> |
| 吉村沙恵 | The Threat of the Provincial Nationalism in Australia in Greg Mclean's <i>The Wolf Creek</i> |
| 森 良太 | The Representation of Society and Identity in Neil Burger's <i>Divergent</i> |
| 竹山知里 | Quentin Tarantino's <i>Django Unchained</i> and Race Discrimination in the U. S. |

Advanced Seminar2 ③ (担当 吉田優子)

- | | |
|------|--|
| 花岡翔大 | Difference of the Accents of American and British English, and the Difference in Business Aspect |
| 阿部嶺之 | The Beginning of Code-Switching – What is Our Real Language – |
| 藤原由衣 | <i>Schwa</i> in French |
| 吉地沙耶 | The Okinawan Language |
| 小阪千晶 | Phonology of Spanish in Spain and in Americas |
| 松田南美 | The Kansai Dialect |
| 重松 樹 | Why Japanese People are Generally Bad at English |

高木健登	(Cognitive Linguistic) Differences between English and Japanese
渡辺夏菜	Why do I Like the Osaka Dialect but not the Kyoto Dialect?
山口真生	The Influence of Dialects in Our Lives in Japan and the U.S.
山本真彩	Rendaku – Sequential Voicing –
山本礼子	The Mikawa Dialect – Verb Conjugation, Euphony, Pitch Accent and Intonation –

Advanced Seminar2 ④ (担当 長谷部陽一郎)

稲葉雄大	Advertisement and Onomatopoeia
安藤由樹	Economy is a Living Organism
林 優希	Does Language Shape Our Thought?: Reconsideration of the Sapir-Whorf Hypothesis
石崎琴美	Cognitive Proverbs: Unknown Presence in Our Verbalized World
桂田実果	Cognition and the Language of Taste
小林春暁	Onomatopoeia and Subjectivity: A Multi-contextual View
黒木雄大	How Cognitive Linguistics Works in Language Education
永岡千春	Irony as a Means for Empathy
西田博光	Different Worldviews Discovered in Baseball-related Metaphors: A Cognitive Linguistic Study
西山雄登	A Comparison of Tokieda Grammar and Cognitive Grammar
利百仁花	An Analysis of Food Onomatopoeias from Cognitive Linguistic Perspective
徳山健太	Applying Cognitive Linguistics to Teaching English Vocabulary
土田大樹	Motivation and Language Acquisition: Applications to Language Teaching and Learning

Advanced Seminar2 ⑤ (担当 竹田宗継)

木村紗矢香	Impact of Japanese Traditional Values on the Failure of Introducing Performance-based Pay System in Japan
石沢 瑤	Impact of Individualism and Collectivism on Global Leadership Development
加藤真章	The Causes of Problems in Business Situations Between Japanese and Chinese Even Though Both Countries are Geographically Close
木村美佑	Influence of Cultural Context on the Use of Onomatopoeia in Japanese
宮崎瑞穂	Comparative Study of the Welfare Systems for the Handicapped People between Japan and Sweden
森 稚菜	Important Role of Communication for Building Trust in Online Business
永野真也	Globalizing Corporate Culture -Correlation between National Culture and Corporate Culture-
中村茉里奈	Advertisement and Culture -Comparison of Movie Advertisement between Japan and America-
中村昌太郎	The Study of Japanese <i>Shinise</i> , Business with Trust
中村澄麗	Comparing Human Translation to Machine Translation: Significance of Coexistence in the Age of Globalization
中澤美朱希	The Comparative Study of Impression Management During an Election Campaign in the U.S. and in Japan
岡本大樹	Comparative Study of Differences on the View of Globally Competent Human Resources Between Japan and the U.S.

大西真鈴	Necessity of Adopting English as Official Language for Japanese Companies
新庄 恵	English Education Reform Plan in Japan Corresponding to Globalization -Issues and Proposals by Observing Realities-
竹田直高	How Japanese Companies Should Train their Prospective Expatriates for Successful Foreign Operation

Advanced Seminar2 ⑥ (担当 窪田光男)

吉本彩恵	The Relationship between Chinese Dialectal Choices and Identity in Taiwan
土居原優希	The Significance of Nonverbal Communication: A Key to Successful Communication
堂嶋 希	Variations of an Initial Response in Cellular Phone Conversations
萱原はなえ	The Influence of Language on People's Color Recognition
松木蘭寛也	The Function of Japanese Punctuation Marks in Social Networking Service (SNS) Communications
松宮梨紗	Awareness of Discriminatory Expressions in Lyrics of Japanese Songs: A Comparison of people from Japan, Taiwan and New Zealand
松尾実香	Exploring Communication between Humans and Animals
中西彩乃	Choices of Terms of Address for Older People among Speakers of Korean
野田アンナ	The Influence of First Name on the Construction of One's Identity
田中美樹	People's Conception of Female and Male Language in Japanese
内園大智	An Analysis of English Textbooks for Junior High School Students in Japan: Towards Better Intercultural Understanding
上田未来	The Relationship between Choice of Term of Self-Address and Identity
植弘 綾	Strategies for Good Communication in Everyday Life

Advanced Seminar2 ⑧ (担当 南井正廣)

阿弥マリナ	A Study of Japanese Views of Black Tea
浅野 潤	An Analysis on Japan's Food Security Policies
江見直人	Influence of Smoking Parents on Children's Evaluation of Smoking
藤田真央	A Few Suggestions for the Japanese Film Industry: The Best Way to Advance into Overseas Market
堀江祐子	Marketing of Perfume: A Case Study of Luxury Brand Companies
伊川和寿	Rice: The Crop Rooted in the Japanese
桑木大典	Caffeine and its Effects on Human Behavior
前川和美	Increasing Popularity of Japanese Seasonings around the World: A Key to their Globalization
森川友菜	<i>Kawaii</i> Business: A Case Study of Sanrio's Marketing Strategies of Hello Kitty
岡田笑佳	The History of the Railway Travel and its Future
立石香菜	Fair Trade Coffee: Raising Awareness of Fair Trade
間 華菜子	The Globalization of <i>Washoku</i> and its Changes
中西純花	The Future Market of Natural Cheese in Japan
仲谷美波	How Different Impression does the Same Font Make on the Japanese and Westerners?

－中国語コース－

専門演習3 ① (担当 内田尚孝)

- 後藤美涼 華人と中国の関係－インドネシア在住華人とその経済的影響－
福原有織 中国人インバウンド観光客に関する研究－奈良県をモデルケースとして－
廣山夏帆 戦後台湾経済の研究－脱中国依存は可能なのか－
岩崎早希 現代中国におけるインターネット規制に関する研究
鎌田峻介 日中歴史認識問題の研究－「南京事件」を中心に－
菊地紘生 中国的特色のある社会主義に関する考察
紀ノ岡真理 中国における電子決済普及の研究－「新常态」と信用社会の実現をめぐる－
國重浩希 中国人民解放軍の研究－組織変遷を中心に－
松崎希龍 中国医療事情に関する一考察－求められる連携医療－
水野有袈 現代中国における水問題の研究－深刻化する水不足の現状と今後－
村瀬令奈 毛沢東評価形成過程の研究－現代中国における毛沢東評価とその位置づけをめぐる－
永井大地 中国人インバウンド消費インサイトの変容に関する研究－「モノ消費」から「コト消費」へ－
中島嘉紀 現代台湾政治の研究－中台関係と台湾アイデンティティを中心に－
西崎裕子 華僑社会の形成と中華料理－世界に広がる中華料理とその特徴－
新田慎太郎 シャドバンキングから見る中国経済
岡見啓子 近代中国における広告デザインと社会の相関関係に関する研究－月份牌広告と女性解放を中心に－
岡浦 愛 現代日本人の中国観に関する研究－「偏見」のない社会は可能か－
朴 苑真 近現代中国朝鮮族の研究－教育とアイデンティティを中心に－
須田 詩 中国企業のグローバル化戦略の研究－国家政策と企業戦略－
辻 ありさ 戦後日中関係と日本経済界－日中長期貿易取決めを中心に－
渡辺将也 日中不和をめぐるメディアの研究－日本の新聞社は日中国民相互理解の一翼を担えるか－
山本昂佑 現代中国における大気汚染問題の研究－北京市の事例を中心に－

専門演習3 ② (担当 中西裕樹)

- 村田友希 (翻訳) 中国語の絵本五冊
中嶋尚輝 (翻訳) 銭乃荣著『上海方言与文化』(中国国際広播出版社、2015年) 第4章
白橋裕子 (翻訳) 徐通鏞著『歴史語言学』(商務印書館、2008年) 第12-14章
高内歌七穂 (翻訳) 太平武著『中韓語言対比研究』(世界図書出版公司北京公司、2015年) 第2、4、6章
和田健太郎 (翻訳) 羅常培著『語言与文化』(語文出版社、1989年) 第1、2、3、5章

専門演習3 ③ (担当 唐颯芸)

- 大木祥敬 中国における水不足の問題とその対策について
濱名さゆり 日中合作映画の変遷－時代ごとにみる日中合作映画と日中関係の関連－
稗田 亮 胡適が目指した白話運動とその功績
小島志穂 日本と中国のアニメにおける共通点と差異－『Re:ゼロから始める異世界生活』
と『鎮魂街』を例に－
西尾夏輝 『ノルウェイの森』の翻訳・翻訳家が中国の読者に与えた影響－林少華を中心に－
小澤菊乃 日本の観光地に対する中国人観光客の選好と日本の観光政策について
田中田葵 一人っ子政策と儒教の「孝」との関係について

専門演習3 ④ (担当 郭雲輝)

- 平野美波 現代中国における都市女性の社会進出とジレンマ－労働状況・人生観の変化を中心－
兵頭里奈 日中間の酒文化の諺から見る日中文化の比較
本多善則 日中同形語の分類に関する考察
石原咲希 中国越境EC市場の現状と可能性－日系企業の中国越境EC市場進出に対する評価－
赤尾玲奈 健康を重視する中国人の生活スタイル－医食同源の食生活と“広場舞”－
高 雪華 中国人における面子、人情、関係主義に関する考察
中川さなえ 中国語・日本語における外来語の受容に関する考察
荻山るりか (翻訳) 刁晏斌『海峡兩岸及港澳地区現代漢語差異与融合研究』(中国社会科学出版社、2012年) 第3章「外来詞語的差異与融合」(94-124頁)
志賀 薫 (翻訳) 韓寒『青春』(湖南人民出版社、2011年) (1-79頁)
田中愛衣 (翻訳) 楊小平『当代漢語新詞新語研究』(中国社会科学出版社、2012年) 第二章「当代漢語新詞新語的產生」(61-106頁)
上村美波 呼称からみる日中の違い－現代中国語の呼称表現から－
山本美友 日本統治時代の台湾における日本語教育－統治を経て台湾に残る日本語とその時代を生きた人々－
山下龍馬 北京語の諸相

—日本語コース—

特別演習2 ① (担当 脇田 里子)

房 夢琳 (ボウ ムリン)

複数の表現ができる言葉の使い分けに関する研究

胡 暁書 (コ ギョウシヨ)

日中の洋画題名に関する対照研究

李 暁 (リ ショウ)

再度の感謝表現の日中対照研究

平 亦珺 (ヘイ エキクン)

日中ドラマにおける役割語としての一人称の比較研究

呉 悦天 (ウ ユエティエン)

『西遊記』における日中オノマトペの対照研究

蔡 一夢 (サイ イチム)

中国原作アニメの日本語翻訳における役割語的表現に関する研究

特別演習2 ② (担当 須藤 潤)

SISSOKO Ekaterina (シッソコ エカテリーナ)

日本語母語話者がいかにロシア語を認識しているか—ロシア語っぽく聞こえる要素の特徴の分析

朴 廷殷 (パク ジョンウン)

日本語母語話者と日本語学習者のフィラーに、発話末の母音を伸ばすフィラーは見られるか

呉 恬 (ゴテン)

外国人日本語学習者のアクセント核に対する意識及び習得程度に関する調査

俞 睿琳 (ユ イェリム)

ポケモンの進化前後の名からみた音象徴との関連性

庄 子誠 (シヨウ シセイ)

中国語母語話者はマンガのオノマトペの音訳を効果的に感じるか

特別演習2 ③ (担当 鈴木 伸子)

李 少彤 (リ ショウトウ)

多言語政策は日本で実現可能か

朱 暁旭 (シュ ギョウキョク)

関西地方における有名観光地への満足度

楊 鶴 (ヨウ カク)

日中文学における狐の比較

編集後記

近年、「グローバル」という言葉が世界にあふれています。日本社会でもグローバル化を意識している企業が一気に増えてきています。そして「グローバル人材」が求められています。「グローバル人材」とはいったいどのような人材なのでしょう。それは、自分の価値観にとらわれるだけでなく、ほかの人達の価値観も受け入れ物事を冷静に客観的に様々な視点から見つめることができる人材のことではないでしょうか。これらの能力を身に付ける場として GC 学部があるのではないかと考えています。

GC 学部の強みでもある留学をはじめ外国語での講義やゼミ、課外活動を通して学生の一人ひとりが「物事を様々な視点から客観的に見る力」、「主体性」、「異文化理解能力」を養います。GC 学部での4年間を通して語学力のブラッシュアップだけでなく、価値観の異なる人達を受け入れる寛容性や、自分の考えを持ち行動できる主体性を身に付けます。これらの能力はグローバル化の重要性が叫ばれている世界では必要不可欠です。GC 学部に在籍することによって「グローバル人材」になるのだと思っています。

この度、*Cosmos* の編集を通して GC 学部の魅力を新たにたくさん発見することができました。そして同時に GC 学部に在学することによって得られる未来への可能性を感じる事が出来ました。至らないところもありましたが無事に編集を終えることができました。本誌を通して GC 学部の魅力だけでなく可能性も知っていただけたのなら幸いです。第7号を手にとっていただき、本当にありがとうございます。そして次号も温かく見守っていただけるとうれしく思います。

英語コース 3 回生 中上 美沙希

2017 年度 *Cosmos* 編集委員会

英語コース 4 回生 浅野 潤、上田 未来、土田 大樹
3 回生 山本 舞美、岩田 咲紀、中上 美沙希、神吉 元頼
中国語コース 1 回生 瀧川 勝登
日本語コース 2 回生 張 海辰

グローバル・コミュニケーション学会

運営編集委員会・役員会

南井 正廣、中田 賀之、Peter Neff、内田 尚孝、王 松、須藤 潤、河原 大輔

Cosmos 第7号

2018年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2017年度 *Cosmos* 編集委員会
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

